

# グアム旅行体験記

総務課 山本 幸栄

## はじめに

平成 28 年 5 月 26 日(木)AM11:35 に高知空港を飛び立った私達 2 班の飛行機は関西空港でデルタ航空機に乗り継ぎ、12 時間後の 23 時 30 分 (現地時間) 無事、目的地のグアム国際空港に到着しました。

恥ずかしい話ですが社内旅行がグアム島に決定した時、私はグアム島の場所を知りませんでした。早速ネットで調べたところ日本からは飛行機で 3 時間半 (時差は+1 時間) のところにあり、人口約 16 万人、島の大きさは淡路島くらいということがわかりました。



## 2 日目

翌日は 14 時くらいまで島内観光。ラッテストーン公園、太平洋戦争国立歴史博物館、アップガン砦など太平洋戦争の爪痕がいまだに残る場所を巡りました。グアムというリゾート地というイメージが強くなるような戦争の遺物の数々を目の当たりにして認識が少し変わりました。グアムには産業というものほとんど無く、日本・韓国・中国からの観光客相手の商売から得た収入で生

計をたてているとのことでした。私達をガイドしてくれた「ヨーコさん」も日航ホテルで働きながらガイドの仕事があるとそちらに派遣されているということでした。戦争の遺物が現在は島の観光資源になり、敵軍だった私達日本人が観光に訪れているというのなにかえにしと時の流れを感じます。



アップガン砦



太平洋戦争国立歴史博物館

観光地の露天ではグアムの特産品であるヤシの実からとれるジュースを 1 ケ 5 ドルで売っていました。ガイドさんからは「おいしい」という説明は聞けませんでした。スイカのような味で水分補給にはちょうど良い感じです。



飲み干した後、果肉もイカ刺しのように切  
って醤油のようなタレをかけて食べました。  
アボガドと醤油が合うようにこちらも結構  
いい味でした。



### 3日目

自由行動は男女11名でレンタカーを2台  
借りてグアム島を1周しました。



ホテルを AM7:00 に出発し、毎週土・日  
の AM6:00~9:00 まで開催されるデデドの  
朝市に出かけました。

朝食がまだだったのでなにか食べられそ  
うなものはないかとお店を物色してみまし  
た。ちょっと冒険できなくて結局、チマキを  
1ヶ買って食べました。味はあまり期待し  
ていなかったのですがこれがなかなかのも



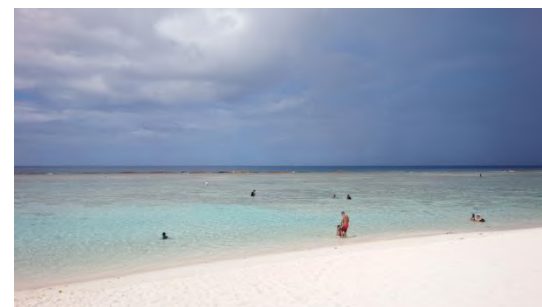
デデドの朝市

ので、具にピーナッツのような豆が入って  
いてもち米の食感と豆の硬さがほど良くマ  
ッチし、意外なおいしさに驚いてしまいま  
した。それからレンタカーを北の方角に走  
らせ、グアムで No.1 の穴場といわれるリ  
ティディアン・ビーチに向かいました。

グアムの天候は気まぐれで、さきほどま  
で晴れていたかと思うと数分で真黒い雲がせ  
まってきます。数分間のスコールのあと、ま  
た何事もなかったかのような青空になりま  
す。最初は「えー、雨？」とガッカリします  
がすぐに慣れました。

リティディアン・ビーチに到着する頃には  
お天気も回復し、本当にグアムらしい(観  
光パンフレットのような)美しい海岸にウ  
ットリしてしまいました。

車は一路、島の南へと向かいます。島の南



リティディアン・ビーチ

側も絶景の連続でした。アガット上陸海岸、セッティ湾展望台、イナラハン天然プール・・・。



セッティ湾展望台からの眺望

私も少しの間ですが左ハンドルの車を右側通行で運転した事も旅の良い思い出になりました。このドライブの最後に到着したのは横井ケープタロフォフォ滝公園でした。

ここでは1944年グアム島に配属され、その後28年間ジャングルに潜伏し、1972年2月に帰国した横井庄一さんが実際に隠れていた洞穴を見学できました。横井さんの事件で日本中が大騒ぎになった1972年、私は小学校2年生で、子供心に「あんなジャングルに28年間も1人で住み続けてすごい人だなあ」と思ったのを覚えています。そのニュースの現場に自分が40年後に立つことがあるとは思ってもみなくてなにか、感慨深いものがありました。



密林



実際に横井さんが  
潜んでいた洞穴の  
入口と状況図



洞穴の模型

## 最終日

AM9:00、グアム国際空港よりデルタ航空にて帰国の途に就く予定でしたが航空機の故障で出発が夕方16:30になり、高知の自宅にもどったのは5月30日(月)AM1:30でした。本当にアツという間の4日間でしたが2班の方々が全員無事で何事もなく帰ってこれた事、最後までお世話していただいた添乗員さんに感謝したいと思います。

# 常夏の島 グアムで3泊4日の旅

総務課 高橋 祐也

## 1. はじめに

今年の社員旅行では、5月26日～29日で3泊4日のグアム旅行に行って来た。

海外旅行は初めてで、パスポートの申請から当日まで期待と不安で胸を膨らませていた。何よりも、オプションツアーの「スカイダイビング」に対する飛んでみたいという好奇心と途方もない高さからのダイブという恐怖心が心の大半を占めていた。



【旧日本軍の潜水艦】

## 2. 一日目(高知～グアム)

初日は、長い移動の末、グアムのホテルに到着したのはAM0:00を過ぎていたが、少しだけホテル周辺を散策した。目に付いた賑やかなバーに入店し、慣れない英語に悪戦苦闘しつつ注文したビールは格別に美味しかった。



【バーで飲んでいたお客さんと記念撮影】



【恋人岬からの絶景】

対照的に、恋人岬の展望台からは、どこまでも続く青い海がとても綺麗で絶景であった。真下を見ると結構な高さがあるので少し怖かった。



【タモンビーチ】

## 3. 二日目(島内観光)

二日目は、ホテルをAM9:00に出発し、グアムの島内観光をした。

中でも、太平洋戦争博物館では、リゾート地として知られるグアムが激戦地であったという事実と、戦争中に日本兵が原住民チャモロ族を劣悪な環境の中で強制労働させたという歴史を知り複雑な気持ちになった。

観光後の4時間の自由時間では、タモンビーチでバレーや、泳いだりして充実した時間を過ごした。



【スリングショット出発前】

夕食を、済ませた後は「スリングショット」（いわゆる逆バンジー）に乗った。カウントダウンが始まり、0で飛ぶかと思いきや、全然飛ばず…。店の人が近づいてきて「タバコ吸っているから5分待つて!!」と日本語で話しかけられた瞬間、上空に飛んで行った。あまりにも急な出来事に驚いたが、上からみたグアムの夜景は綺麗ですごく楽しかった。

#### 4. 三日目(オプションツアー)

三日目は、私にとって今回のグアム旅行での一大イベントでもある「スカイダイビング」に朝早くから向かった。3時間程の睡眠だったので、送迎車で目的地に向かっている最中も睡魔が襲って来た。到着すると恐怖心で目が覚めた。はじめに、説明を受け誓約書を記載した。ダイブスーツを着用し、飛行機で高度4200m上空まで向かった。高度が高くなるにつれ、恐怖心は募る一方だった。また、私はダイブする順番が最後であったため、一人、二人と徐々に減っていく人数に恐怖が頂点まで達した。それをお構いなしにインストラクターは飛んでしまった。



【前の人がダイブする瞬間】



【高度4200mからのスカイダイブ】

時速200kmでの約1分間のフリーフォールは、経験した事のない風圧で耳が痛くなった。パラシュートが開くと、ゆっくりとグアム全体を見渡すことが出来る程の余裕が出来た。素晴らしい絶景に感動した。地上に着くと、安心感と疲労で、とてつもない睡魔に襲われ、ホテルで2時間の休息を取った。



【ダイブ後に行われた授与式】



【レーシング風景】

休息後はすぐに、オプションツアー「ヤマハレーシングカート」でレーサー気分を楽しんだ。実際には、F1並みのスピードは出していないが、それなりのスピードで走行出来た。爽快だった。



【CHURRASCOの外観】

昼食は、ホテルから歩いて15分程のCHURRASCOという店でランチメニューの肉食べ放題(ソフトドリンク飲み放題付き)を注文した。値段は一人\$30で少し贅沢なランチだった。

熱々の肉を、ウェイターが目の前でスライスしてくれた。次から次へと来る肉はどれも美味しそうで、自分のペースで食べていると、あっという間にお皿に肉が一杯になり、食べるペースが崩れてしまった。味は最高に美味しかった。グアムに来た時は、また食べに行きたい。



【お肉をスライスするウェイター】

肉で体力回復後は、最後のオプションツアー「ZIP GUAM」に向かった。さすがに、3つもオプションツアーを体験すると疲れた。それに追い打ちをかけるかのように、大雨が降ってきた。服がびしょ濡れになったが、これもまた、良い思い出だと自分に言い聞かせ、最後のオプションツアーは幕を閉じた。



【大雨の中ワイヤー移動】



【参加者で記念撮影】

## 5. 四日目(グアム～高知)

最終日も朝が早く、バスに乗り込むと旅行の疲れですぐに爆睡した。気がつくと、グアム国際空港に到着していた。出国審査を済ませ、AM9:00 発の航空機に搭乗した。しかし、航空機のブレーキのバックアップシステムの故障で点検及び修理に 1 時間程かかるというアナウンスがあり、航空機から降りた。その後、予定時間の変更が繰り返され、結局出発したのは、PM4:30 であった。



DEPARTING To	Airline	Flight	Sched	Gate	Remark
Sunday, May 29					
Osaka Kansai 大阪関西	DELTA	172	9:00a	6	At 12:15p 12:15p
Tokyo, JP ~ Nanta 東京 ~ 成田	DELTA	607	11:55a	5	At 11:45a 11:45a
Tokyo, JP ~ Nanta 東京 ~ 成田	UNITED	196	12:05p	10	on time 定期
Saipan サイパン	UNITED	2921	12:10p	13	on time 定期
Manila, Philippines フィリピン・マニラ	Cebu Pacific	102	12:20p	8	on time 定期
Busan 釜山	JIN AIR	848	1:45p		on time 定期

[ 予定時間変更を繰り返す案内板 ]

関西国際空港への到着は PM8:00。

予定していた高知行きの航空機に乗れるはずもなく、ここでもう一泊かと覚悟していた。しかし、デルタ航空がバスをチャーターしてくれ、高知駅まで帰って来られた。到着したのは、次の日の AM1:00 を過ぎていた。旅にアクシデントは付きものというが、さすがに疲れた。

## 6. さいごに

アクシデントはあったものの、全員無事に帰って来られて本当に良かった。今回のグアム旅行では、南国のリゾート地ならではの絶景をたくさん見ることができ、非常に有意義な旅でした。

## グアム社員旅行

営業部営業課 山本 剛也



### はじめに

5月26日から29日まで3泊4日の日程でグアムへの社員旅行に参加しました。1日目は、高知空港から伊丹空港へ飛行機で移動し、バスで関西国際空港へ行き、デルタ航空の飛行機でグアムへ向かいました。

グアム空港から外にでると深夜にも関わらずものすごくじめっとした蒸暑い空気が体に押寄せてきました。50周年の社員旅行で訪れた台湾の時も蒸暑いと感じましたがそれ以上でした。やはり常夏の島グアムは、想像以上の蒸暑さでした。

### 2日目

2日目は、グアムの観光地を巡りました。リパセオ公園、ラッテストーン公園、アフガン砦、恋人岬等です。一番心に残ったのは太平洋戦争博物館でした。日本はこのグアムをアメリカに奪還されたことで本土



への空襲が本格的に開始されたとありました。それは当時の日本軍も認識していたことだと思います。だからこそこの島を巡り日本とアメリカが激しい戦いになったのだと改めて認識いたしました。今は、70年前に日米両国が憎しみ合い戦争していた事などなかったかのように最も重要な友好国です。これからも先の大戦を忘れることなく、いつまでも両国の間に平和が続けばと思いました。

午後からは、ホテルから歩いてグアム最大のショッピングモール・マイクロネシアモールへ行きました。昼食後の運動がてらにと歩いて向かいました。3Kmぐらいだろうと軽い気持ちで歩き出しましたが、想像以上にショッピングモールは遠く、暑さになんとか耐えながら歩ききってショッピングモールへ着きました。平日の午後とゆうことで人も少なくゆっくり買い物を楽しむことができました。帰りはシャトルバスを使ってホテルに帰りました。





### 3日目

3日目は、少し早起きをして、デデド朝市へ行きました。野菜や果物や魚介類等の食材から日用品やお土産品までいろいろあり活気があふれていました。高知の日曜市を感じさせてくれ、親しみがわき、歩いて見るだけでもすごく楽しく思いました。ホテルに帰ってからはグアム島の南部を巡るオプションツアーに参加し、バスに乗ってグアム南部の美しい風景を見ていきました。最後に立ち寄ったゲフパゴチャモロ文化村では、施設のガイドさん

から、海水からの塩の作り方やココナッツの剥き方等チャモロ人の文化に触れることができるとても楽しい施設でした。

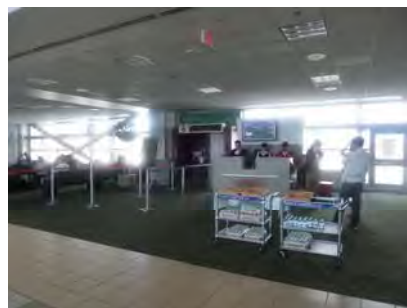


#### 4 日 目

4 日目は、1 日目の逆の工程で高知への帰高です。アクシデントは、グアム空港でおきました。全員の出国手続きも済み、飛行機に搭乗しこれから関西国際空港へ向かい離陸する時に、機体を再度点検するとアナウンスが流れました。すぐに終了するとのことでしたので、機内でまわっていましたが、全く終わる気配がなく30分ぐらいたつとブレーキシステムのバックアップにトラブルが見つかったので修理するのに少し時間がかかるため機内から一度貴重品を持って出るようにと指示がありました。この時は、2時間程度で修理は終わるとのことでした。しかし、2時間たっても全く終わる気配がありません。あと2時間、あと1時間で終わるとだけしか情報を出してもらえず、9時に出発予定だった飛行機は16時45分になってやっと日本に向けて出発することが出来ました。当然、伊丹空港から高知空港へ飛行機での帰高は出来ないなので、日本旅行の加田さんがデルタ航空と交渉して、関西国際空港から高知駅までバスで帰ることになりました。関西国際空港に到着したのは19時35分で、それからバスに乗り高知駅についたのは深夜の1時でした。

#### さいごに

今回の旅行では、最終日にアクシデントに遭遇し、大変でしたが、グアムでの滞在期間中はとても楽しくリフレッシュすることもできました。今回のアクシデントを一つの教訓とし、次回このようなアクシデントが発生した時は、自分がどのような行動をとるべきか考えさせられました。【報告、連絡、相談】がアクシデントの時はより重要だと感じました。今後は、日常の仕事から特に気を付けて心がけていきたいと思います。



## 初めての海外旅行 (In Guam)

営業部営業課 森下昌裕

### 1. はじめに

社員旅行で生涯初の海外旅行を経験できた。前日は期待と緊張で眠れるだろうかと心配だったが、しっかりと熟睡。出発日を良い目覚めで迎え、順調な滑り出しだった。

### 2. 一日目

高知龍馬空港から伊丹空港に到着、バスで関西国際空港へ向う。当然初の関西国際空港である。テレビドラマで見る空港のイメージと重なり、行き交う人々の国際性の豊かさに新鮮さと感動を受けた。さらに初めての「外貨への両替」、そして手にした「ドル紙幣」が醸し出す独特な匂いもまた、これから始まる初の海外旅行へのテンションを高めてくれた。

出国までに時間があつた。昼食はいつもの仲の良い社員と空港内の中華料理店へ。

腹も一杯、気分良く空路グアムへ。

機内ではほとんど熟睡。空港へ降りる際、夜景を写真に収められなかったが、寝ぼけ眼にしっかりと焼きつけた。

グアムに到着後、まずスマホ (iPhone) を海外で使える状態に設定。これをしないと大変なことになる。(未設定なら、旅を終えた時点で使用料が 100 万円以上請求の場合もあるとか・・・) これも初体験。

ホテルに到着。空港到着から感じていたが、夜中でもグアムの暑さには凄い。

移動の疲れも重なり部屋ですぐに休もうと考えていたが、行動をともにする仲の良い社員は皆 20 代。30 代の私も負けていけないと皆で元気一杯、夜中のグアムを散策してみることに・・・。





カエルの死骸  
(アメリカンサイズ)



ホテル横のマクドナルド  
(ジャパニーズサイズ)

1時間ほど、夜の街を見て回り気づいたのが、聞こえてくる日本語の多さ。

他には韓国語や中国語など、旅行前から聞いてはいたが、東アジア系は英語がしゃべれなくても何の問題もない環境だと、あらためて感じた。

実際飲食店や土産物屋その他様々な店に出入りしたが、ほとんどで日本語が通じるため、安心できた。

ホテルに帰り熟睡。一日目が終了。

### 3, 二日目

二日目はグアム観光。

まずはサンタ・アグエダ砦(アプガン砦)。



かつてのスペイン軍統治時代の名残を感じられる場所。

次に向かったのはラッテストーン公園



チャモロ文化を代表する遺跡  
(ラッテストーン)



日本軍の残した防空壕

次に向かった、スペイン広場。



チョコレートハウス  
(東洋風な感じもするがスペイン建築)



スペイン広場では、ヤシの実のジュースと白い果肉を食す。味・食感はまるでイカの刺身の様だが、案外美味しくて驚いた。

その後訪れた、太平洋戦争博物館では、日本軍の二人乗り潜水艦を発見。



最後に訪れたのは「恋人岬」



あっという間に夕刻。夕食はポリネシアンショーを見ながらのバーベキュー。



煙で食欲半減。でも、美味しかった。



独特のリズムで踊るダンサー  
観光地を巡った、二日目が終了。

#### 4, 三日目

三日目は自由行動。

スカイダイビングをしたいと思っていたが、すでに予約で一杯。やはり初の海外旅行、反省した。

事前に予約しておくべきだった。気持ちを切り替えゴーカートに乗ることに。



遊園地などにある子供用とは比にならない迫力。最高速度は時速100キロ程度出る。

暑さも忘れ、手に汗握る熱いバトルをし、旅の楽しい思い出になった。

昼食はネット検索で見つけた、グアムで有名なステーキハウスへと向かった。しかし、営業時間が夕方からであることの確認を怠る凡ミス。

やはり、初の海外旅行である。

気を取り直し、飛び込みで入ったお店がこちら。



【シュラスコ】というブラジリアンバーベキューのお店。

結構なボリューム。次から次へと肉が皿に盛られ、美味しかった。大満足だった。



満腹のまま、午後のオプションツアー、ジップラインに向かった。



高い柱の上に張られたロープを滑車で下りていくアクティビティー。

結構なスピードが出て、お腹が一杯なこともあり、ロープは大丈夫か？と恐かった。



最後はみんなで記念写真

自由行動を終え、前日とはひと味違うポリネシアンショーを見ながらの夕食。



前日より迫力があつた。

気の合う仲間と楽しんだ、三日目が終了。

## 5, 最終日

最終日なんとか早起きし、空港へ向かう。

飛行機に乗り込んで離陸を待つが、待てど待てど出発の気配がない。

どうやらバックアップシステムに問題があったとのこと。一度飛行機を出て待つことに。

添乗員曰く、1時間くらいで飛べるでしょう。1時間後、飛ぶ気配無し。

また、1時間。また、1時間。

依然として出発の気配がない。

もしかして、このまま帰れないのか。

などと思い、待ちあぐねて16時になってやっと機内に。

出発時間は16時40分だった。

関西国際空港に着いた時は、泊まりも覚悟していたが、急遽バスを出してもらい5時間ほど揺られて高知駅に到着。

家にたどり着いたのは午前1時半だった。

## 6, おわりに

初めての海外旅行、最後にハプニングもあった。振り返ってみれば楽しい思い出である。

きっとこれからの糧となる。そして、また海外旅行に行ってみたいと思わせる思い出深い社員旅行だった。

お世話になった旅行会社の皆さま、ありがとうございました。

以上

# グアム旅行レポート

都市計画課 岡 潔

私がグアムを訪れるのは、16年前の社員旅行以来二度目となる。前は私もまだ若く、パラグライダーやマリンスポーツなどはその時に経験していた。

ならば、今回は何をしようか。若いつもりでいても、体が付いていかないことは自覚している。はしゃぎすぎて怪我でもしたら、妻に何を言われるかわかったものではない。そんなこんなで今回は、おとなしく島内を車で廻ることにした。

3日目の早朝、前日から用意してあったレンタカー2台に分乗して総勢11名が向かった先は、デデドの朝市。1号線を10分程東に進むと、目的の場所に辿り着いた。ここは土曜日と日曜日の6時～9時までしか開かれない地元の人のための朝市で、およそ100件の店が並んでいる。



朝市の風景

野菜から魚、衣料品まで生活に必要な物がほとんど揃っており、観光地の土産物屋では20ドルほどだったTシャツも、3枚10ドルで売られていた。

物珍しさも手伝って一軒一軒覗いてみると、何やら屋台からおいしそうな匂いが漂ってきた。

朝食を摂っていなかった我々は、その店で腹ごしらえをすることにした。メニューは多くはないが、驚くほど安い。我々が頼んだライススープはたった2ドルで、日本のおかゆに似ていた。

野菜や肉をショウガやニンニクのスパイスで煮込んだスープは、あっさり味で前日のバーベキューと深酒で凭れた胃に優しい。とてもおいしく、結構な量を一人残らず完食していた。



満員の屋台

次に目指したのは、グアム島の北端に位置するリティディアン岬だった。アンダーソン空軍基地を右手に見ながら、1号線を北上する。幹線道路から離れて3a線に入ると、急に景色が変わった。周りには家がなくなり、白線も引かれていない舗装はぼろぼろの状態である。車はスコールでできた水溜まりを避けながら、ゆっくりと進んで行った。

目的地の駐車場は、予想外にガラガラだった。ここは、グアムで最も美しい海が見られる場所だと聞いている。半信半疑で海岸まで出ると、期待していた以上



の景色が目の前にあった。

真っ白の砂浜の向こうには、どこまでも遠浅の海が広がっている。透明度 No. 1 と表される海の色は鮮やかなコバルトブルーで、思わずため息が漏れるほど美しかった。



リティディアン岬のビーチ

この後は、一路島の南部へと向う。ホテルのあるタモン地区を過ぎ、さらに南下してガアン・ポイントビーチパークのオブガン砦に立ち寄った。



上陸するアメリカ兵を睨んでいた大砲

ここには旧日本軍の大砲が、今もフィリピン海に向けて残されている。このあたりにはマゼランの上陸地や日米の激戦地であるアサン海岸などが集中しているが、今回全島を廻ってみてその理由がわかった気がした。

海底火山として出現したグアム島の北東部は、珊瑚から成る造礁石灰岩で形成されている。噴火後はマグマの衰えとともにその多くが滑落して、恋人岬に見ら

れるように海岸線は絶壁となっている場所が多い。



北東部に位置するリティディアン岬付近の絶壁  
土壌化した造礁石灰石が、ラテライトを形成している

一方島の南東部は、ココス島が象徴するようにラグーンと呼ばれる浅い珊瑚礁帯が沖合 10km 付近まで続いている。船で上陸する場合の適地は限られ、この付近しかなかったのだろう。

幹線に限って言えば、グアムの道路は非常に良く整備されていた。交通量も少なく、運転マナーもすこぶる良い。ナビの搭載されていないレンタカーで米軍基地に迷い込んだりする失敗はあったが、快適なドライブが楽しめた。

南部は、北部と比較すると圧倒的に観光スポットが多い。展望台やウマタック橋、熊岩に天然プールなどでその都度休憩していると、いつの間にかに正午を回っていた。



セッティ湾展望台での集合写真



子供達に交じりイナラハン天然プールに飛び込む社員

ドライブの最終目的地は、横井タロフォフォ滝公園と決めていた。グアムの観光地は、海岸部に集中している。唯一内陸部にあるこの場所は、是非とも行っておきたかった。

しかし女性陣からは、土産物を買うためのスーパーマーケットへ寄ることを頼まれていた。残りの時間を考えると、昼食時間の確保さえ難しい。それからは、ひたすら車を走らせた。

20ドルの入場料を払ってケーブルカーに乗り、ジャングルへと入ってゆく。5分程でタロフォフォ滝までついた。石灰岩が水の浸食によって削られた二段の滝は滑らかで、愛媛県松野町にある滑床溪谷に似ている。周囲を巡るには遊歩道には吊り橋が架けられ、海沿いの観光地からは別世界に思えた。



タロフォフォ滝の下段

横井さんが隠れていた隠れ穴までは、更にモノレールで3分ほど進む。うっそ

うとした木々に囲まれた川沿いに、その場所があった。



客は6人しか乗れないオンボロモノレール

穴の中を覗いて見ると、湿気で妙な匂いがする。いくら隣の川で食料が調達できたにしろ、こんな所でよく28年間も潜伏できたものだと感心した。



実際住んでいた穴の横にある模型

まだ見たい所もあるし、無料で遊べるアトラクションも残っている。しかし時計を見ると、返車の時間が迫っていた。このままでは食事はもちろん、買い物をする時間もない。我々は、後ろ髪を引かれる思いで公園を後にした。

### おわりに

グアムは1521年にポルトガルの探検家マゼランに発見されて以来、スペインやアメリカ、日本と占領・統治が繰り返されてきた。そしてアメリカの一部となった現在も準州でしかなく、住民は大統

領選挙権さえも持っていない。またアメリカ本土とは違う法律が適応されていることで、最低賃金やビザの発給問題などでも格差が生じている。

太平洋戦争の激戦地となったこの島では、2万人の日本兵と3千人のアメリカ兵が戦死した。それとともに、数千人規模の島民も戦闘に巻き込まれて亡くなっているそうだ。

日本占領下にあった2年7ヶ月。日本軍は島民を敵国人として扱い、強制労働を強いた。戦況が厳しくなり米兵の上陸が避けられないことを悟ると、日本軍は機密保護のために700名あまりを虐殺する。島民に掘らせた防空壕などの情報が、彼らから米軍に漏れるのを防ぐためだった。

そんなグアムの経済は、現在7割を観光、残りの3割がアメリカ政府による軍事関連支援金によって支えられている。そして、その観光客の約8割が日本人である。

「恥ずかしながら、生きながらえて帰って参りました」

1972年、28年ぶりに祖国の土を踏んだ横井庄一さんの第一声はあまりにも有名だ。その1年後、彼の結婚式はメディアの全額負担によって、グアムで盛大に行われた。

その頃の日本は、団塊の世代が結婚適齢期に差し掛かっていた。テレビで大々的に放映されたこともあって、グアムは日本人定番のハネムーン先となる。

その後、人気は一気に加速した。手軽な海外として幅広い層が訪れるようになり、当時年間10万人ほどだった日本人観

光客は、ピーク時で10倍の100万人を超えた。海外旅行の渡航先が多様化した現在も、80万人程度で推移している。

歴史と戦争の荒波に翻弄されてきたグアムが、その傷跡を引き摺った一人の日本人帰還兵によって人気観光地になったことを考えると皮肉なものである。

グアムの人たちは、今回訪れた私たちを底抜けの笑顔で迎えてくれた。その表情には、一点の曇りも窺えない。先祖を失った彼らの胸にあるわだかまりは、時の流れが消し去ったのだろうか。

反日、嫌日を声高かに叫ぶ韓国人や中国人の姿を見るにつけ、日本や日本人に対する彼らの本当の気持ちを聞いてみたいと思う。帰りの飛行機を待つ空港で、私はそんなことを考えていた。

# グアム旅行記

都市計画課 吉田 直起

## 1. まえがき

旅行日程	
2016/5/26(木)	高知龍馬空港10:35(出発) 伊丹空港12:20(到着) 関西空港13:00(到着) 関西空港19:00(出発) デルタ空港23:30(到着)
2016/5/27(金)	アプガン岩 ラッセストーン公園 スペイン広場 太平洋博物館 恋人岬 夕食フィッシュアイボリネシアンディナーショー
2016/5/28(土)	スカイダイビング ゴカートツアー ジップラインツアー オンワードBBQ&ポリネシアンショー
2016/5/29(日)	グアム国際空港17:00(出発) 関西空港20:30分(到着) 高知駅1:00(到着日をまたいで)

2016年5月26日～29日にかけて社員旅行でグアムに行って来ました。ロサンゼルスに続き海外に行くのは2回目。

社員の方と一緒になので一人で行くより安心感があり、とても充実した旅行となりました。



## 1日目 5月26日(木) 昼食

高知龍馬空港 11:35 分発 ANA1606 便で伊丹空港へ向かいました。その後リムジンバスで関西空港に移動。約4時間の待ち時間があったので、紅虎餃子房(べにとらぎょうざぼう)で昼食をとりました。



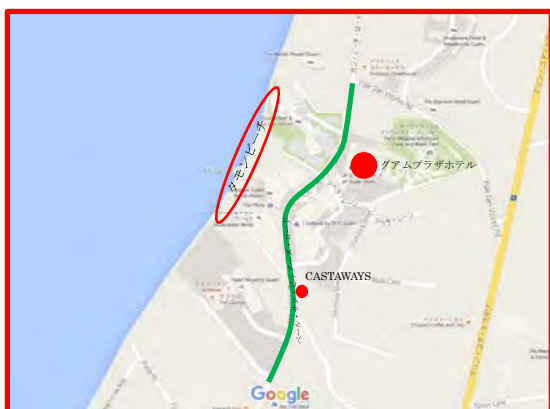
メニューの内容は餃子を中心とした中華料理。



5人で食べ、1人当たりの料金は、2300円。昼食にしては贅沢となりました。

### ホテル

宿泊したホテルは、グアムプラザホテル。日本語を話せる方が何人かロビーにいるので安心して泊まりました。また、ショッピング店と繋がっていて、お土産等が買えるので観光客にとっては便利だと感じました。



1日目の最後は、グアムプラザホテルから徒歩で5分程行った所にあるCASTAWAYSバーで飲みました。夜中なのにそこだけ騒がしかったのを覚えています。勇気を振り絞り店内に入りました。



店内はビアガーデンのような雰囲気でした。音楽を聴きながらお酒を飲める空間です。

店員の方や現地の外国人は優しく一緒に写真も撮ってくれました。



店員との写真。



飲みに来ていた方との一枚です。

## 5月27日（金）2日目早朝ランニング

中平君と早朝ランニングをしてきました。朝6時に起床。グアムプラザホテルの周りを7km程度ランニングしました。とにかく蒸し暑くて、インナーシャツ一枚で走りましたが、ホテルに戻って来たときには体中汗だくでした。



### 観光

移動時間を使ってバスガイドのようこさんが現地について教えてくれました。



### 〈アップガン砦〉

アップガン砦には大砲のレプリカが3基設置されていました。当時は、現地住民であるチャモロ人の大反乱を抑える為にスペイン軍が拠点として建設したそうです。



アップガン砦からの眺めは良かったです。



### 〈スペイン広場〉

教会の前では、1個5ドルのココナッツが売っていました。他の観光地でも良く売っている所を見かけます。スペイン広場は、障害者の方が売っているそうです。



飲んだ後は、ココナッツを中華包丁で半分に分ちます。中の身をスプーンですくい醤油をかけて食べます。

イカの刺身みたいな味がしました。とても油がのっていて食べやすかったです。

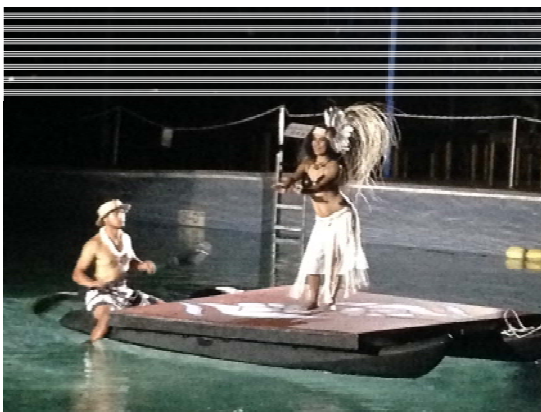
#### 〈太平洋戦争博物館〉

場内には、太平洋戦争当時のものが展示されていました。戦争を知らない私達にとって分かりやすく解説されていたのが印象に残っています。



#### オンワード BBQ&ポリネシアンショー

2日目の最終日は、ポリネシアンショーのイベントを見ながら夕食をとりました。ショーの途中舞台に呼ばれ、ポリネシアダンスを踊りました。思うように腰が振れず苦勞しました。



#### 5月28日(土)3日目 初のスカイダイビングに挑戦

早朝5時起床。支度をしてスカイダイビングに向かいます。5分程度のレクチャー後、スカイダイビング用の飛行機に乗って、インストラクターとベルト等で固定されいざ出発。



4200m 到着。インストラクターの方は、躊躇なく次々に飛んでいきます。



機内の様子です。



4200m からの景色は最高でした。

約 1 分程度フリーフォール後、パラシュートが開いた状態で 7 分。

最大で時速 200 km。1500m の地点からは、パラシュートが開きます。とてもスリルがあり、一生の思い出です。

#### ゴーカートツアー

10 分程度の動画を見た後、ヘルメットを装着し、レーサー気分を満喫。



#### 昼食 CHURRASCO ( シェラスコ)

牛を中心に食べ放題。味付けは多彩で、鶏などもでてきました。

更に、飲み放題とサラダ等のバイキングがついて安価な値段で食べられます。男性ウェイターが串ごと客席に運んできて、目の前で一枚ずつ切り分けて配ってくれました。



#### ジップラインツアー

ターザンになった気分で爽快。

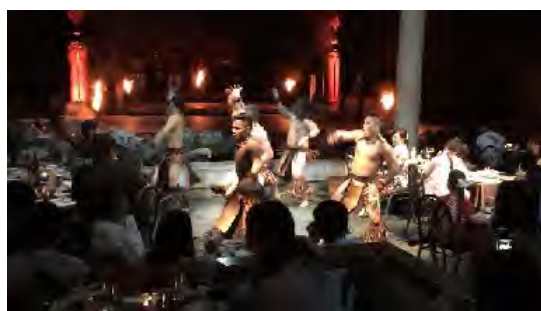
しかし、途中から雨が降ってきたのが残念でした。換えの服を用意していなかったのも、パジャマで夕食。



フィツシュアイポリネシアンディナーショー  
バイキング形式でお肉やカニ等が事前に準備されていました。



イベントも 2 日目より迫力あるショーで、とても見応えのあるショーでした。





#### 4日目 アクシデント

当日 5時 40分に1階ロビーに集合。

9時出発の関西空港行きの飛行機に乗り、いざ出発するというときに、機内のブレーキ装置の異常が発見。グアム国際空港で結局出発より8時間遅れの出発でした。

日本に着くと高知行きの飛行機は飛んでいないとのこと。バスで5時間かけて高知駅についたのは日を跨いで午前1時です。非常に疲れていました。

#### グアム豆知識

グアムは、子供が多いほど国から援助を多く貰えるそうです。生活保護を貰いながらアパートの援助も受けられるのは、アメリカ政府の軍事関連支援金があるからだそうです。

元々グアムには、蛇は存在していなかったそうです。米軍がブラウンツリースネイクをつれてきたことで生息し始めたそうです。

#### 感想

今回の社員旅行で海外に行くのは2回目。改めて思うことは、現地の方と上手く話せるようになりたいということです。

会社設立55周年にはヨーロッパ旅行もあるようなので、自分の時間を削ってでも英会話のスキルを習得したいと思いました。

また、今回はアクシデントもありました。上記の内容(4日目 アクシデント)では、飛行機のブレーキエンジンが故障のため予定よりかなり遅れて日本に着きました。

アクシデントによって、日本との連絡手段が途絶えた人もいました。

今後海外に行くときには、気をつけておくべきと思います。

海外に出ることで、文化の違いを直接実

感できました。歴史や生活習慣についてその違いを体験できたことは大きな成果です。次のヨーロッパが楽しみです。

# 2016 社員旅行記 ～グアム～

河川砂防課 村岡 志郎

## ～1.出発（高知➤グアム）～

これまで2回経験した海外旅行は、いずれもグアムであったため、16年ぶりの海外旅行先がグアムに決まった瞬間、実はあまり乗り気ではなかった。

私は、異国の雰囲気味わってみたい意識が強かった反面、よほど、グアムに縁があるんだなと感じながら高知空港を出発した。

## ～2.観光編～

### 2.1 朝の散歩 (2016/5/27/6:00～)

宿泊先のグアムプラザホテルから10分程度歩くと珊瑚礁で出来た白い砂浜と透明度が高く澄み切った遠浅が印象的なタモンビーチに出る。

現地時間で6:00頃のビーチは、ホテル従業員によるレジャー用のレンタル遊具の手入れ(写真1)、金属探知機による砂浜整備など、観光客を迎える準備が進められる他、日中は禁止されている投網漁(写真2)が行われていた。観光立国としての一日の始まりと住民生活の一部を垣間見ることが出来た。



写真1: 遊具手入れ状況



写真2: 投網漁状況

### 2.2 団体観光 (2016/5/27)

パセオ公園、太平洋博物館、アブガン砦、ラッテストーン公園、恋人岬を観光した。

訪れた先は、アメリカ軍の上陸地、防空壕、人間魚雷の展示(写真3)など太平洋戦争に関わる場所を多く見学し、グアムの歴史は、戦争と植民地からなることを復習することとなった。

太平洋博物館で拝見したビデオは、生々しい当時の状況が記録されており、観光産業で賑わう現在のグアムからは想像しがたいものであった。

終戦直後に沖縄で生まれて幼少期につらい思いをしたバスガイドさんの体験談や、残留日本兵の横井庄一さんの写真に唾を吐く日本人観光客がいたことなど、生の声を聞き、人間の愚かさや平和の尊さを改めて強く実感した。



写真3: 太平洋戦争博物館/人間魚雷

### 2.3 オプショナルツアー (2016/5/28)

夕食までフリータイムであった3日目は、午前中に土産の購入を済ませ、午後から「アドベンチャーリパーククルーズ:\$70」に参加した。

前回の旅行では、トローリングや海水浴といったハードなマリンスポーツを満喫した。50歳を過ぎ、体力の衰えを感じていた今回は、横井庄一さんが太平洋戦争終結から28年間潜伏したジャングルの雰囲気を体感することを目的にこのツアーに参加した。

ホテルを出発し、おんぼろバスに1時間程度揺られて目的地であるタロフォフォ川に到着した。

このツアーは、遊覧船(写真4)に観光客30人程度が乗船して、ジャングル内の川を遡上し(写真5)、バナナ、マンゴーなどの天然果実や、熱帯魚、ナマズ、椰子ガニなどの野生動物を見て回る他、2箇所の上陸して遺跡や椰子の葉編みの実演(写真6)、猪や水牛などの家畜を見学するものであった。

そのうち、火起こし体験(写真7)は、今回の旅行で強く心に残った体験の一つである。



写真4: 遊覧船

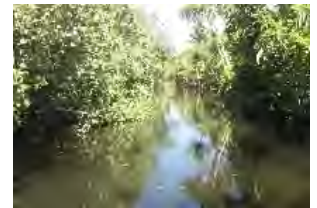


写真5: タロフォフォ川

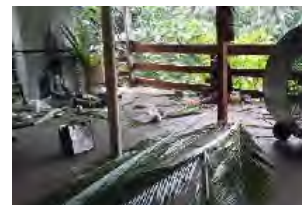


写真6: 椰子の葉編み実演



写真7: 火起こし体験

## ～3.食事編～

### 3.1 ポリネシアンディナーショー (2016/5/27.28)

夕食は2日ともテンションの上がるポリネシアンショーがセットになったディナーであった。

2日目のBBQ&ポリネシアンショーは、コンロの火力が強く食材が黒焦げになったり、目の前が見えないほど煙が蔓延するなど、ある意味、サバイバル状態だったが(写真8)、3日目のフィッシュアイポリネシアンディナーショーは、バイキング方式であったため、落ち着いて食事を堪能することが出来た(写真9)。

民族楽器や照明効果により南国ムードに包まれて催されるポリネシアンショーは、筋肉隆々の男性による火を使った逞しい踊りや、美しい民族衣装に包まれた女性の踊りを観覧し、「家族にも見せてやりたい」強い衝動にかられた。(写真10)



写真 8 : BBQ 状況

写真 9 : バイキング料理



写真 10 : ポリネシアンショー

### 3.2 食料事情

グアム旅行で気になったのは、平坦な土地に田畑が見当たらなかったことである。帰国して調べてみると、グアムの土壌は作物の栽培に適さないため、食料自給率が限りなく低く、主食である米や野菜は主にアメリカ本土からの輸入に頼っているとのことである。

### ～4.グアムの社会資本整備～

私が感じたグアムの社会資本整備状況に関する感想を列記する。

#### 4.1 道路整備

➤車社会であるグアムの道路は、歩道がほとんど整備されていないうえ、貴重な歩道区間内には巨大な電柱がその真ん中を占領しており、歩行者の通行の妨げになっている状況であった。(写真 11)

➤路面はコンクリート舗装とアスファルト舗装が施されていた。バスガイドの説明によると、「材料に珊瑚礁の砂が使用されていることから、スリップ事故が多く、軽自動車やバイクはほとんど使用されていない」とのことである。交差点付近の路面を観察すると、スリップ対策として「ほうき目仕上げ」が施されていた。(写真 12)

➤路面排水用の集水桝は、日本の規格より 2～3 倍大きいサイズで作られていた。これは雨期のスコール対策の一つと考えられる。

➤路面の平坦性は劣悪で、特に横断管部分の沈下がひどく、オプションツアーのおんぼろバスに乗っていると腰が宙に浮くほどの揺れを感じ、日本の道路整備水準の高さを痛感した。



写真 11 : 歩道内の電柱



写真 12 : ほうき目仕上げ

#### 4.2 河川整備

➤今回の旅行では河川を見学する機会が少なく、整備状況は移動中のバスからの観察のみであった。

橋梁付近の取合せとみられる鋼矢板式護岸以外、河川構造物は見当たらず、自然の状態のままであるように見受けられた。(写真 13)

➤グアム島も日本同様にプレートの境界（マリアナ海溝）がある。過去に M8.1 の地震に見舞われた経験があるが、河川を渡河する比較的新しいと見られる橋梁にも落橋防止装置は設置されていない。



写真 13 : 橋梁と鋼矢板式護岸

#### 4.3 電力事情

➤グアムは海辺に建設された火力発電所から架空線によって電力は供給されている。

➤道路沿いに建てられたいた電柱の大きさに驚かされた。これは、2002 年にグアム島に上陸した瞬間最大風速 83m の大型台風により電柱が倒され、新たに設置したとのことである。(写真 14)

➤道路沿いにはそのときに倒れた電柱と見られるコンクリート柱が縁石としてリサイクルされていた。(写真 15)



写真 14 : 巨大電柱

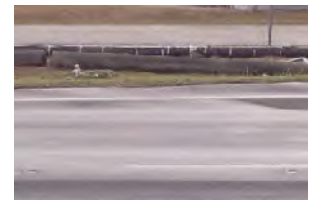


写真 15 : リサイクル状況

### ～5.帰国（グアム➤高知）～

帰国の際は、飛行機の整備不良によりグアム空港で 7 時間程度の足止めが発生し、関西国際空港到着時間は 19:30 頃であった。そこから航空会社が手配した貸切バスに乗り 2:00 頃、高知に到着した。

かなりしんどい思いをしたが、それも今となっては貴重な土産話の一つである。今回の事象は、我が社で取り組む BCP 計画において、緊急時の対応に関する教訓として活かしていくことが重要である。

私にとって 3 回目となるグアム旅行は、グアムの歴史、観光産業、社会資本整備など、これまでと違った視点で旅行を楽しむことが出来た。

末筆ではあるが、旅行を企画、運営していただいた全ての方に感謝する次第である。

ありがとうございました。

## 社員旅行 (in グアム)

河川砂防課 富永敏絵

### 1. 出発

5月26日(木), 10:30に高知龍馬空港に集合。あいにくの雨で旅行日和とはいかなかったが遅刻者もなく、定刻通り出発した。

関西空港では、両替や昼食の後は3日目のレンタカーでの予定を相談し、空港内を見て回った。藤原顧問も合流し、無事グアムに到着した。

グアム空港での入国審査は前回訪れた時よりも厳しくなっていた。指紋認証や写真撮影等初めての経験で少し緊張していたが、審査官が日本語で対応してくれたので、問題なかった。

ホテルに到着後は、翌朝の集合時間を確認し、疲れていたため早々に就寝した。

### 2. 観光

5月27日(金)2日目。予定より少し遅れて9:10にホテルを出発。アップガン砦、ラッテストーン公園、スペイン広場、太平洋戦争博物館、恋人岬等を訪れた。景色はとても綺麗で、島の人達もとても友好的であった。島の至る所に戦争の跡が見られ、博物館で見たVTRでも私たち日本人のしたことを改めて思い知らされた。



アップガン砦の砲台

ラッテストーン公園では、旧日本軍の防空壕が残っており、鍵が外れていたため少しだけ中に入ってみた。今は公園の近くで平和な場所だが日本語で防空壕と書かれたものを見ると、やはり複雑な気分になった。



ラッテストーン公園にある旧日本軍の防空壕



太平洋戦争博物館に展示されている  
旧日本軍の人間魚雷

2日目に各地を案内してくれたガイドさんはハーフの方で沖縄生まれという話だった。グアムの歴史や現在のグアムの経済状態など、幅広く教えてくれた。賃金の話に関しては日本の私たちと同じような問題もあるのだと少し驚いた。ガイドさんは戦後間もない時期に誕生し、お父さんが軍人ということだったので様々な苦勞をされていると思うが、そんな風に見せず、元気でかつ可愛らしくとても魅力ある方だった。

2日目の夕食はオンワードでのBBQだった。腹ごしらえができた頃合いでポリネシアンショーが始まり、会場から参加するコーナーでは都市計画課の吉田くんが選ばれ、頑張っ

踊っていた。楽しく見させてもらった。

### 3. 自由行動

3日目はレンタカーに乗り、自由観光をした。総勢11名で2台に分かれ出発。まずはデドの朝市に寄った。地元の人も買い物にくるだけあって、野菜や魚などの生鮮食品が見られたが、観光客相手のお店がやはり多かったと思う。朝食をここで取る予定だったが市場を歩くルートが失敗し、結局中国系のお店でゴマ団子を1個だけ買って食べた。他の人に聞くとお粥が美味しかったと聞いた。少し残念である。

次に向かったのはリティディアンビーチ。グアム島の北端である。ここは観光客が少なかった。今まで見たビーチの中で一番綺麗なビーチだった。



リティディアンビーチ

ビーチを出た後は島の半時計回りにルートを取りながら、アガット湾・セッティ湾展望台・ベアロック・イナラハン天然プール・タロフォフォの滝といった観光地を見学して回った。

タロフォフォの滝では横井庄一さんが暮らした洞窟も見学することができた。洞窟は竹で土が崩れないように抑えてあり、通気口や入り口を塞ぐ竹の蓋もあり、とても素人が作ったものとは思えなかった。しかし、あの暑い場所で28年もの長い間、たった一人で生活していたことを思うと精神力の強さに頭が下がる。



横井さんが暮らした洞窟入口

結局、グアム島をほぼ1周することができた。途中、米軍の基地に入りかけたり（入口でパスポート掲示を求められ、すぐにUターンさせられた）車にナビが付いてなかったので目的地を通りすぎそうになったりと、ハプニングも多かったが、それも良い思い出となった。初めて左ハンドルの車を運転し、最初は緊張したが、30分ほど乗ると慣れて楽しくドライブすることができた。2,3度ウインカーとワイパーを間違えたのはご愛嬌のうちだと同乗者には笑ってもらった。

あまり時間配分を考えずに行動したため、昼食抜きとなったが、とても楽しい1日だった。地図1枚でナビをしてくれた岡さんと先導で走ってくれた西村研了くんに感謝。



レンタカー走行ルート

#### 4. 帰高

最終日、朝6:00にホテル出発。空港に着き出国審査を済ませ、あとは飛行機に乗るだけとなった。定刻になり搭乗が始まって席に着いた。早朝出発だったので、ほとんどの人が眠って離陸を待っていたと思う。私もそうだった。しかし1時間経っても飛行機は動かない。ついに、故障が見つかったので一旦飛行機から降りるようアナウンスがあった。その時はすぐに出発できるだろうとタカをくくっていたのだが……。結局、9:00発が昼になっても出発できず、ついには16:00過ぎ発となってしまった。伊丹空港の乗継便に間に合わず、大阪泊の可能性もあると飛行機の中で聞いた。もう1泊かと諦めていたが、旅行会社の方のおかげで、関西空港に着くと高知駅までバスで帰れることになっていた。遅くなくても帰り着きたいと思っていたので、有難かった。日曜日であったのに、会社から家族の方に連絡を取って頂き対応ありがとうございました。

到着時刻	出発時刻	目的地	航空会社	機体
11:55	19:30	グアム	DL	172
18:05	18:19	台北	CI	172
18:30	19:15	鄭州	FM	821
経由地 上海(浦東)				
19:00	19:00	グアム	TW	312
19:10	19:11	マニラ	PR	408
19:30	19:36	ソウル(金浦)	OZ	116

到着便の案内

#### 5. おわりに

今回で私は3回目のグアムだったが、マリンスポーツが主の今までとは全く違った旅行ができた。最終日のハプニングが非常に印象強く残り、その時は体力的にきつかったけれど、とても良い思い出ができた旅だった。一緒に旅行できた2班の方々と帰りの件でご尽力いただいた日本旅行の加田さんに感謝します。

## グアム社員旅行レポート 第 2 班 (2016. 5.26～5. 29)

設計一部 河川砂防課 公文海斗

### 1. はじめに

私は楽しみにしていた初めての社員旅行であるとともに海外旅行でもある旅行に第二班として5月26より3泊4日のグアム旅行に参加した。

### 2. 出発

第1班の方から待ち時間は長いと聞いていたが、本当に眠たくなるくらい長く、時間を持て余した。

待ち時間の疲れで乗り物の中ではほとんど寝ていたが、グアムへ着くと気温の変化で目が覚め、そこには初めて自分の目で見る外国の景色が広がっており、感動した。宿泊ホテル(写真2)の到着が深夜であったため明日の準備をして就寝した。



写真1:関西国際空港～グアム国際空港



写真2:グアムプラザホテル

### 2. 恋人岬

二日目は多くの場所を観光した。中でも印象に残った場所は恋人岬であった。公園には、岬名の由来でもある男女が抱き合う像も立っていた。観光地の一つとして多くの方が訪れている。高い所から眺める海は青く透き通り本当に綺麗で感動した。(写真3)観光客が多く、賑やかな場所であった。夕食はBBQ&ポリネシアンショーということでショーを見ながら夕食を楽しんだ。(写真4)



写真3:恋人岬から望む海



写真4:ポリネシアンショー

### 4. 逆バンジー

2日目の夕食を終えるとスカイダイビング同様に楽しみであった第1班の情報で興味が湧いた逆バンジーのアトラクション会場に向かった。上に飛ばされるタイミングが分からないため急に飛ばされたときびっくりして悲鳴ばかりあげた。落下している

ときはそれ以上に怖かった。スカイダイビング以上に怖いと感じた。



写真5:逆バンジー

## 5. スカイダイビング

3日目は旅行で一番楽しみにしていたスカイダイビングツアーに参加した。ホテルを6時20分出発したため眠かったが、現地に着くと緊張と恐怖により目が覚めた。高度4200mからダイブする直前は恐怖で笑顔が消えたが飛んでいるそれが楽しいものになり笑顔で終わることができた。



写真6:無事終えたスカイダイビング



写真7:フィツポリネシアンディナーショー

## 6. 通貨

初めて外国のお金(アメリカ)を使うため会計のときはかなり困った。紙幣は問題なかったが小銭に関しては困った。小銭はたまる一方だったが最終日には少し減った。

外国の通貨について、もっと下調べをするべきだったと反省した。



写真8:外国のお金

## 7. 帰国

最終日は朝の6時10分にグアム国際空港に向けてホテルを出発した。予定通り9時に関西国際空港行きの飛行機で帰ろうとするが、飛行機のブレーキの故障により7時間程度出発が遅れた。関西国際空港からは航空会社の手配したバスで高知駅まで無事到着できた。

## 8. 終わりに

今回は初めての海外旅行だった。ツアーであることや、頼もしい先輩方と一緒に行動したため、楽しい旅行になった。

最終日に、アクシデントもあったが、今回の社員旅行はいい思い出となった。充実した4日間であった。





## 平成 28 年社員旅行（グアム）

地盤防災課 北村暢章

2016 年 5 月 26 日（木）

### 初めての海外

1 日目は、高知空港に集合し、伊丹空港経由で関西国際空港まで行った。関西国際空港で 2 時間程度の空き時間があったため両替と遅めの昼食、そして暑いと予想されるグアムに向けて扇子を購入した。



写真 1 グアム用の扇子

昼食は、1 班の勧めで中華料理に行った。私は、麻婆茄子とビールを飲んだ。また、たくさんの種類の餃子と一緒に行ったメンバーと分けた。



写真 2 関西国際空港での昼食

入国手続き等で実際にホテルに着いたのは、現地時間で午前 1 時前であったが、次の日のために営業課の森下さんとグアムの夜の街を散策した。機内食が少なかったため帰りにホテル近くのマクドナルドに寄った。日本とほとんど変わらない味だった。



写真 3 グアムのマクドナルド

2016 年 5 月 27 日（金）

### 異国の文化

2 日目は、ホテルのバイキングで朝食をとった。前の晩にハンバーガーを食べていたので朝食は控えめにした。



写真 4 海外での初朝食

午前中は、パセオ公園、太平洋戦争博物館、アブガン砦、ラッセストーン公園、スペイン広場、恋人岬を巡った。スペイン広場では、生まれて初めてココナッツを飲んだ。太平洋博物館には、キャプテン・アメリカが飾ってあった。



写真5 ラッテストーンと道路課の西村さん



写真6 ココナッツの試飲会

昼食後、ビーチにある海の家で涼んだ。総務課の高橋さんや都市計画課の吉田さん、道路課の中平さんと新入社員の3人は、海で泳いでいた。2日目は自由な時間が多かった。暇つぶしや次の観光地について調べたりするのにインターネットが非常に役立つことを感じた。Wi-Fiを持っている人の近くだと使えたので助かった。



写真7 お世話になった歩くアクセスポイント

夕食は、オンワードBBQでポリネシアンショーを楽しんだ。BBQでは、煙に焼かれながらの夕食となった。

夕食後に8人で逆バンジーに行った。私は、飛ばなかったが、見るだけでも非常に怖かった。



写真8 煙に焼かれながらのBBQ



写真9 ポリネシアンディナーショー1



写真10 ポリネシアンディナーショー2

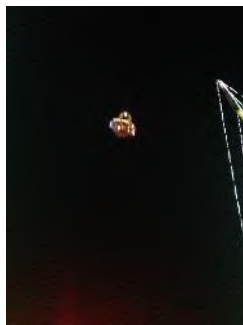


写真11 逆バンジー

2016年5月28日(土)

### 自由行動

3日目は、各自オプションツアーに行った。私たちのグループは、午前中にゴーカートに行った。私は、ゴーカートに乗らず見学だったが、観るだけでも迫力があつた。



写真12 ゴーカート

昼食は、シュラスコというブラジリアン BBQ のお店に行った。食べ放題でたくさんの種類のお肉を食べ過ぎたため苦しかった。



写真13 シュラスコ

午後からジップラインというワイヤーを使ったアトラクションに行った。雨が降っていたため服が濡れてしまった。高いところが得意ではないのであまり乗り気ではなかったが、高いところからの景色は非常にきれいであつた。



写真14 ジップライン

2016年5月29日（日）

### 飛行機トラブル

最終日は、9時の飛行で関西空港に帰る予定であったが、飛行機トラブルにより16時までグアム空港で待機した。今まで飛行機トラブルというものを経験したことがなかった。お詫びの昼食や飛行機内のサービスも行きより多かった。

関西空港から高知駅まで航空会社の手配により高速バスで高知に帰ることができた。長旅で非常に疲れたが、添乗員の加田さんに色々とお気を使っていた。



写真15 グアム空港での朝食（7：00）



写真16 コーヒーブレイク（10：00）



写真17 グアム空港での朝食（13：20）



写真18 お詫びのピザ（13：40）

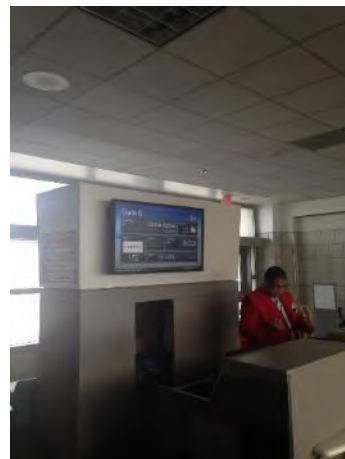


写真19 グアム出発（16：00）

### まとめ

旅行中は日本語の看板が多くあった。海外に来ているという感覚があまりなかった。最終日に大きなトラブルがあったが、充実したグアム旅行であった。

## 社員旅行レポート

地盤防災課  
嘉藤 敬佑

去る5月26日から29日まで、社員旅行でグアムへと出かけた。外国へは以前も出かけたことがあるものの、それは船で行った一人旅で、今回は全く異なるスタイルの海外旅行である。

5月26日

### ▼関空への移動

グアム行きの飛行機は関空から出発するので、まずそこまで行くことになるが、高知からだと思いのほか、手間がかかるようだ。まず、自宅から高知空港までさえ苦勞する。筆者の自宅は土佐山田だが、空港から10キロ圏にもかかわらず直通する公共交通はない。そこで、「土佐山田駅～(JR)～後免駅～(くろ鉄)～のいち駅～(乗合タクシー)～高知空港」とアクセスした。高知空港からはANAで伊丹空港まで飛ぶ。高知～大阪の飛行機は全て伊丹発着なので、伊丹から関空まではリムジンバスで移動となる。関空に到着したのは13時を回っていた。土佐山田駅を出るときに交換となった岡山行の特急に乗り、新幹線を乗り継いでいけば、それでも到着できる時間である。個人旅行であれば、国内の移動はJRを利用するところだ。

### ▼目がまわる関空

関空は、開港当時に大阪に住んでいたこともあって見学に行ったことはあるが、旅客として利用するのは初めてである。そもそもどこへ出かけるにも、陸路と海路しか選択肢にない筆者にとって、こんな機会でない空港には縁がない。関空の印象は、ひとことで言えば「目がまわる」である。各種案内看板は充実しているから空港内で迷子になることはないが、人間の身の回りというべきスケールを遙かに超越したその規模は、どこか違和感がある。



▲巨大な空間が印象的な関空出発ロビー

韓国旅行の時に利用した下関港のこぢんまりとしたターミナルと比べるとは難があるかもしれないが、悠然と楽しむ国際的な旅という印象を受ける下関港に対して、関空はせわしなさを感じる。スピードが全てを支配しているかのようだ。

出国審査も機械的だ。機械化ゲートではなく、対面審査であるにもかかわらず、効率を求める空路だからそれでいいのかもしれないが、出国というある種の緊張した場面である。相応の緊張感はもっとあってもよいはずだ。

### ▼世界中の飛行機

あっけなく終わった出国審査が済んでしまえば、あとは飛行機に乗るだけだ。ウイングシャトルという空港内移動の新交通システムに乗って、グアム行きのデルタ航空出発ゲートへ移動する。何一つストレスを感じない。国際空港とはなんとも機能的、効率的なものである。



▲ウイングシャトル。ストレスのない空港内移動を実現する。

さて、この日は風向きに関係もあったようで、ちょうど搭乗ゲートの目の前の場所から飛行機が離陸へ向け滑走をはじめていた。



▲行き交う各社の航空機。見ているだけで楽しめる。

行き交う飛行機を眺めることしばし、これから搭乗するデルタ航空 473 便の飛行機もボーイングゲートへとやってきた。到着と同時に地上係員も一斉に動き出す。飛行機のあらゆる操作が自動化され、GPS を利用した航行システムが活用され、ゲート改札もバーコード化された

としても、やはり飛行機の安全運行には多くの係員が不可欠なのだ。

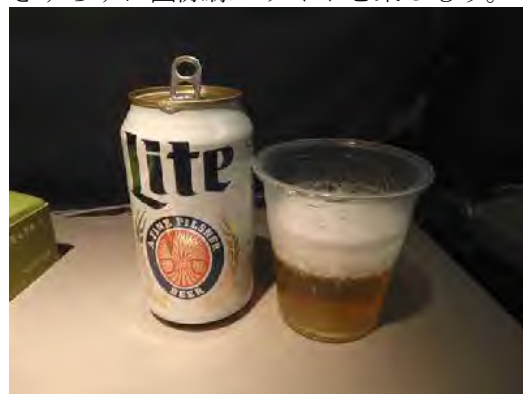


▲これから乗るデルタ 473 便。地上係員も慌ただしく出発準備中。

### ▼夜間飛行

デルタ 473 便は関空出発が 10 分早発の 18 時 50 分、グアム到着は現地時間の 23 時 20 分というナイトフライトである。事前に暦を調べておいたが、飛行中に日の入り、そして月の出を迎えるフライトになるようだ。18 時 54 分、ほぼ定刻にトーイングカートに押されて 473 便は出発した。滑走路を離れ、徐々に高度を上げる。雲の上にとると、確かに進行方向右側の窓から雲上の夕暮れを見ることができた。

上空で気流も安定したところで軽食。アメリカンスタイルのバーガーだった。飲み物はワインに米国製のビールを頼む。普段アルコールは控えているが、もはやここはアメリカ。日本のルールは引きずらずに国際線フライトを楽しもう。



▲米国のビール。やはり日本のものとは味の印象が異なる。

あと1時間程度でグアム到着といった頃だっただろうか、左側の窓から月が見えてきた。世に乗り物はさまざまあるが、やはりこういった天体现象を感じながら乗ると、また一段と楽しくなる。昇りいく月を伴いながら、473便はグアム国際空港へと着陸した。



▲飛行機から見える月。神秘的な印象を受けた。

到着後の入国審査ではほとんど質問されずに指紋採取となる。税関でも質問はされずにパス。表面的には厳しく審査されているように見えるが、実際のところはそれほど厳しいお調べはない。心理的に厳しそうなお印象を与えて、犯罪を未然に防止しているといったところだろうか。

### ▼コンビニは万国共通

ホテル到着後、水などを買いに近くのコンビニに出かけた。グアム中心部といっても深夜1時になればひっそりと静まりかえっている。そんな中、ぽつんと一軒だけ営業しているコンビニである。入ってみると照明はさして明るくなくアメリカ風だが、商品配列や品物は日本のそれと大差はない。買い物をするにしても、日常会話レベルの英語ができれば問題はない。かくして現地紙(英語)とミネラルウォーターを購入した。なおこのとき、ほぼ同時にホテルを出て街に繰り出した若手社員グループは、深夜2時(グアムではこれ以降午前8時までお酒の販売ができない)きっかりに酒場から退店を求められたとのこと。順法精神はやはりアメリカの一部である。多民族国家ゆえに

法律が重要視される。どこかの東洋の島国のように、あうんの呼吸といったものはまずもって通用しないようだ。

5月27日

### ▼戦争に翻弄されるグアム

この日の午前中は貸し切りバスでグアム北部の主要観光地を巡る。その中で印象に残っているのは、スペイン広場や太平洋戦争記念館、旧日本軍が残した防空壕といった戦争にかんするものだ。この島が戦争に翻弄されてきた様子を今に伝える。スペイン広場付近の旧日本軍が残した防空壕は戦後、アメリカの核保管にも利用されていたという。さらに太平洋戦争記念館のすぐ西側には米軍基地の入口が見える。日本においてはきな臭さがただよい、国際的には米露がにらみ合っているような時代にあって、再び戦争の惨禍がもたらされることがないように、世界の英知の結集が求められているように思った。



▲スペイン広場付近に残る旧日本軍が掘った防空壕。放射能注意標識も見える。



▲アサンビーチ付近に残された魚雷





▲旧日本軍の人間魚雷。



▲米軍基地入口。

### ▼今も残る太平洋戦争の遺跡

バスツアーのあとは夜のディナーショーまでフリータイムとなる。この時間を利用して、タモンのビーチに残る太平洋戦争時代に建造されたトーチカなどを見て回った。実際にはタモン湾での戦闘はなかったとのことであるが、ビーチの各所にその遺跡は残っている。各種の文献に書かれているとおり、観光客が泳ぐビーチには不釣り合いなものだ。ただし、これは戦争遺跡であるといわれない限り気がつかない人も多い。実際、トーチカ撮影中に遊泳中の若手社員に出会ったが、状況を飲み込めないようだった。それほどまでにこの島の悲しい歴史は忘れ去られているということか。きな臭さがただよい、再び世界が戦争に突き進んでいるようにみえる時代だけに、改めて戦争遺跡が今日まで残されているという現実を直視しなければならない。



▲ハイアットホテル付近に残るトーチカ。海水浴客の目立つビーチで異彩を放つ。

遺跡群は合計5箇所巡ったが、それにしても暑い。ほんの少し歩くだけで大粒の汗が吹き出る。半袖の軽装にしてこの暑さである。七十数年前、この地で戦った兵隊はこの暑さの中をとてつもない重装備で行軍したわけで、人間を人間と扱わない戦争の惨禍をここでも感じる。

### ▼楽しめるものではあるが・・・

夕食はオンワードビーチリゾートでのディナーショーだ。この場所も旧日本軍が攻め込んだ場所とのことで、そこに戦後日系資本が Onward(前進)といって入ってきたことに批判もあるようだ。

食事はバーベキュー主体の日本人の口にも合うように作られたもので、お箸が使われ、白いご飯もあった。食事そのものはおいしく、これ自体は満足できるものであったが、せっかくグアムに来たのであるから、もっと現地のもを食べたいとも思った。また、かなりの量があって食べきれず、これはもったいない。

ショーは現地のお祭りの一部を再現したものである。これも楽しめるものであるが、事前にそれぞれの演技にどういった意味があるのかが分かると、より楽しめるのではないだろうか。各地に伝わる伝統的な踊りは何かしらの意味を持っている。なかでも火を使ったパフォーマンスは圧巻なだけに、それにどのような意味があるのかが分かると、もっと思いを巡らせることができるだろう。



▲火を用いたパフォーマンス。こういった意味があるのだろうか。

そして、どうもこういった場でも日本人は乗りがよくないようだ。韓国、中国からの観光客もディナーショーに来ていて、パフォーマーが「こんばんは」、「アンニョンハセヨ」、「ニーハオ」と声をかけていくが、「こんばんは」だけは返事の声が弱い。遠慮することはない。こういった場であるから思い切って楽しんでしまえばよい。

5月28日

#### ▼グアム一周

この日はオプションツアーということで、特に何も申し込みをしていなかった。つつい一人旅感覚で、路線バスを使って島の各地に残る戦争遺跡を巡ってみようと思ったが、この島にはそのような一般路線バスはないとのこと。結局、島を一周するバスツアーがあり、それが複数の戦争遺跡を巡るということなので利用することとした。

朝、バスがホテルまで迎えに来てくれる。このあと各ホテルをまわって、お客さんをひろっていく。その中にお仕着せのバックツアーしかした事のないような中年女性も見かけた。ガイド氏からここが見所といわれてそのたびに歓声をあげるが、これで本当に旅を楽しんでいるのだろうかと思ってしまう。それでも、各所の戦争遺跡を見ることができて、その点は大いに満足であった。

#### ▼各地に残る戦争遺跡

前日のタモン湾の遺跡に続き、各所の戦争遺跡を見て回る。アサンビーチも前日来ているが、時間の都合で海岸付近の大砲まではいけなかった。この日はその時間も十分にあった。



▲アサンビーチの大砲。

タロフォフォの滝付近には、横井ケーブもある。ただ、ここにあるのはレプリカで、本物はジャングルのさらに奥にある。しかし、レプリカとはいえジャングルでの単独戦の雰囲気はよく伝えている。



▲横井ケーブ。(レプリカ)

ツアーの最後には、グアム平和慰霊公苑に立ち寄った。どうやらこれを建設するにあたって日米間でかなり応報があったようだが、今日は静かに手を合わせたい。



▲グアム平和慰霊公苑。

### ▼米国流の民主主義

一応グアムもアメリカである。アメリカといえば民主主義の本家本流だが、グアムにおいてもその一端を垣間見ることができた。

ちょうどこのとき日本ではサミットが開かれていて、アメリカでどのように報じられるか関心があった。特に筆者はオバマ大統領の広島訪問がどう報じられるか関心があったわけだが、この日購入した現地紙「Pacific Daily News(英字紙)」にもその事実が記載され、社説ではおおむね肯定的にとらえているようであった。一般にアメリカの新聞にはタブーがないとされるが、確かに日本のメディアのような自主規制を感じることはなかった。

また、グアムでは選挙も行われるとのことで、各所に候補者が野立て看板を出していた。アメリカには日本の選挙のような公設掲示板はないとの話は以前耳にしていたが、その通りだ。



▲選挙に向けた野立て看板。日本では考えられない光景。

こうなれば候補者は選挙に勝利するために、どれだけ支持者を集められるかにかかってくる。日本のようにメディアが勝手に騒いで期待してくれるということもなさそうだ。アメリカの政治はかくも問題含みであることは世界の常識だが、民主主義のレベルは日本よりも遙かに高いという事実を感じることができた。

### ▼ごめんなさい

バスツアーはホテルまで戻ることもできるが、マイクロネシアモールで降りてもらったこともできた。筆者もここで降りて、お土産物を調達する。モールは所詮ショッピングモールである。それ自体は見るべきところでもない。赤いシャトルバスでホテルまで戻ろうとしたが、ここで筆者の趣味が出てしまった。赤いシャトルバスのうちタモンシャトルは専用の車両が使われているが、買い物シャトルは各種のアメリカ車バスを赤く塗っているだけ。つい乗り鉄ならぬ乗りバスをしてしまった。中でもKマートからプレミアムアウトレットまで向かうバスは運転手氏が好きな音楽を大音量でかけていた。しかもドアを閉めない。日本でこれをすれば非難轟々だろうが、この地では特になんとも思わないあたり、日本社会が律儀すぎるのかもしれない。

このように個人的に乗りバスをしていたわけであるが、この日の夕食へ向かうための集合時間を勘違いしていた。ホテルに戻るとロビーで皆が待っている。幹事氏、団長氏、添乗員氏はじめ、皆さんにかなり心配と迷惑をかけてしまった。その後の行程は消化できたとはいえ、それでも集合時間に20分ほど遅れてしまったわけで、ここで改めて皆さんに謝罪する。

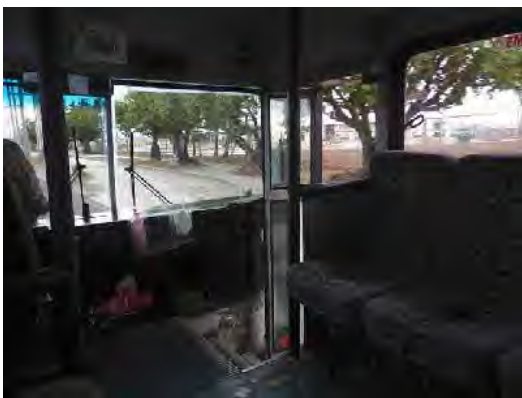
時間の間違いは一人旅であろうと団体旅行であろうと命取りになりかねない。気をつけなくてはならない。



▲無骨なスタイルが印象的な買い物シャトル。



▲修理点検中のデルタ 172 便。結局 7 時間 40 分遅れで出発した。



▲ドアを開けたまま走るバス。運転席では運転手氏の好きな音楽が大音量で流れていた。

5 月 29 日

### ▼帰れるのか

この日は日本へ帰るだけだ。グアム 9 時発のデルタ 172 便で帰国の途につく。ところが飛行機に乗ってから不具合が発見された。はじめは数分で終わる点検といていたが、やがて飛行機から出てもしよとのことになり、はじめのうちは 1 時間程度の点検といていたのが何度も出発が延びる。結局 7 時間 40 分ほど遅れてグアムを出発した。もちろん関空に着いてから、高知まで通常の交通機関では帰れない。そこでデルタ航空が高知までバスを出してくれ、高知駅から自宅まではタクシーを使うこととなった。旅にトラブルはつきものだが、デルタ航空というアメリカを代表する航空会社の飛行機がこうなるのもまた珍しいことだと思った。

### おわりに

今回、筆者にとっては 2 回目の海外であったが、もっといろいろな世界をみたいと思うようになった。グアムでは、特に南部においては時間の流れ方が日本のそれとは異なる印象を受けた。もちろん現地には現地の問題があるが、日本人と異なり人生そのものをうんと楽しんでいるようだった。こういったことも日本国内のとどまっているだけでは知ることができない。現地を見ることによってこそ直に感じるすることができる。会社員とはいいながらも、カレンダーをめくってみると休日は意外なほどある。ぜひ、こういった機会を利用して、もっと海外に出かけたい。今回は社員旅行だったが、今度は一人旅をしたい。それでこそ、さらに国際理解が深まるものと考えます。

最後になりましたが、昨今の海外情勢の不安などで社員旅行が一時は国内になりかけていた中、海外旅行という方針を曲げずに、今回の旅を実現していただいた社長に感謝します。また、旅行の具体的な段取りを行って下さった皆さんにも感謝します。

ありがとうございました。

(これからも、短期、中長期(留学、海外勤務等含む)問わず海外に出かけたいという思いを強くしました。)

# グアム旅行

地盤防災課 有澤芳則

## はじめに

誰かに「グアムにどんなイメージを持っていますか」と尋ねられたら、「マリンスポーツ」「恋人岬」「綺麗な景色」などといった答えが返ってくると思います。

『幾多の旅番組やバラエティ番組などで紹介される、日本人憧れのリゾート地』というのが、私がグアムに抱くイメージです。

そのグアムに入社初の社員旅行で行くことになりました。グアムで何をしようかと色々考えていたのですが、面白そうなツアーや観光場所が多くて決めきれず、旅行当日になりました。

## 海外旅行に慣れてなくても大丈夫

言葉の壁と食べ物への不安は、海外旅行のつきものです。しかし、年間 80 万人前後の日本人が訪れるグアムです。店看板や案内板には見慣れた日本語の表記があり、ホテルには日本語で対応できるスタッフがいます。『ここは本当に外国なのか』と思うことがあるので、海外旅行に慣れていなくても大丈夫です。

食事に関しては、日本語メニューがあり、ネット検索をかければレビューがすぐ見つかります。日本にも進出している有名ジャンクフード店もあります。



McDonald

## チャモロ族とラッテ・ストーンの関係

グアムの観光ツアーで一番多く紹介されるのは、先住民族のチャモロ族にまつわる場所とその歴史です。

その中の一つ、ラッテ・ストーン公園にあるキノコ、あるいはこけしのような形をした石柱『ラッテ・ストーン』。チャモロ族はこのラッテ・ストーンの上に建物を作り、生活をしていました。それ以外にも、墓地や宗教的な用途と幅広く使われていたそうです。ガイドさん曰く「ラッテ・ストーンの起源については、今でも解明されていない部分がある」ということです。

ただ、グアムにある McDonald や雑貨店などにラッテ・ストーンの模様や模した物などを見かけると、チャモロ人にとってラッテ・ストーンは精神的な誇りではないかと思えました。



ラッテ・ストーン (Latte stone)

## 小さい島でも道路は広い

グアム島の広さは日本の淡路島とほとんど変わらない広さです。しかし、日本のように道は狭くありません。

どこを走るにしても二車線道路があたり前で、州道に至っては三車線道路が普通です。車線区分のない住宅街でさえ、車三台分くらいの車幅があります。

アメリカが車社会であるため、グアムでもこのアメリカと同じ基準で設計されているのではないかと思います。日本ではとても真似ができないことだと思います。



Pale San Vitores Rd



Route 1 JCT

## いたるところで「指フレーム」

ツアーで回ったグアムの観光地、街中を走る道路、広いショッピングモール、透き通る海の青さが美しいビーチなど、グアムはどこに行っても撮影したくなるロケーションで溢れていました。

現在は人々の憩いの場として使われている『太平洋戦争国立歴史公園』があります。ここはアメリカ軍がグアムを奪還する際の拠点です。この見晴らしのいい場で、沢山の人が亡くなりました。

この景色が戦争への哀愁を引き立てているように感じます。



太平洋戦争国立歴史公園

タモン地区のヒルトン・グアム・リゾート&スパ近くに、『ジップラインアドベンチャー』というアトラクションがあります。

これは高低差を利用し、場所から場所へ移動する遊びです。移動中に見える海岸やタモン地区の景色は、思わず指フレームを作り、撮影する構図を考えるくらい綺麗です。カメラで撮影できなかったのが、とても惜しく思います。



ジップラインアドベンチャー

## おわりに

今回の旅行を通して、私が抱くグアムのイメージは大きく変わりました。景色良し、遊び良し、食事良しの三拍子であると思います。

今回の旅行で行けなかった場所や、マリンスポーツなどは次回訪問した際にチャレンジしてみたいです。

ありがとうございました。



ポリネシアンショー (Onward Beach Resort)

# グアム旅行

設計一部 地盤防災課

泉 新太

## はじめに

このたび3泊4日グアム社員旅行を企画していただきありがとうございます。

社員旅行は私にとって社内での親睦を深めただけでなく、グアムの歴史、日本とグアムの深い関係性を勉強する上でとても良い機会となりました。また、グアムで人生初となる逆バンジーも体験することができとてもアグレッシブで濃い4日間を過ごさせていただくことができました。

これから、私が現地で学んだこと、感じたことを書いて行きたいと思います。



## 滞在1日目

初日の遺跡巡りツアーでは、太平洋戦争国立歴史博物館で、日本植民地時代のグアムの映像を拝見し、現地の人々が強制労働、強制動員されている姿を見ました。

映像では、戦争で原住民のチャモロ人がたくさん亡くなられたことや日本では見られない戦争で殺された方々の生の映像も含まれておりとてもいたたまれない気持ちになりました。映像を見た後、実際に戦争遺跡ラッテストーン公園の防空壕や、日米の激戦地であったアサン海岸などを見学しました。現在の遺跡後は戦争当時とは考えられないほど草木も生い茂りのどかで平和な印象を受けました。この遺跡巡りツアーを通してグアムのより深い歴史を知ることができました。また改めて戦争の悲惨さを実感するいい機会になりました。

そして、初日の夜、私は人生初の逆バンジーに挑戦しました。バンジー自体が初めてで乗る前までは緊張していましたが、実際に飛び始めるととても爽快で今まで感じたことのない感覚を味わえました。また、飛行中はグアムの夜景も見ることができ感動しました。

## 滞在 2 日目

2 日目は念願であったグアムのビーチに行きました。グアムのビーチは日本と違って、砂浜が真っ白で、水の透度も高くとても綺麗でした。

現地調達した海水パンツとサンダルでグアムの海を泳ぎ、浜辺でのビーチバレーととても楽しい時間を過ごさせていただきました。



グアムのビーチ

またその日の夕食はグアムの伝統舞踊と共にバイキング料理をいただきました。伝統舞踊は男女それぞれの演目に魅力があり、男性は炎を使ったパワフルなショーを、女性は体のラインを活かした妖艶な踊りで、どちらもとても魅力的に映りました。



グアムの伝統舞踊

## 滞在 3 日目

この日はグアムから日本へ帰国する日で朝の 6 時にホテルを出ました。

順調にいけば高知へ 18 時に到着する予定でしたが、機体のトラブルによりグアムの空港で 7 時間近く待機することになりました。前日、携帯の充電をおろそかにしていたため家族との連絡も取れず大変苦勞しました。今回の出来事で不足の事態にも対応できるよう事前の準備をすることの大切さを身にしみて感じました。ともあれ無事、その日に飛行機に乗ることもでき次の日の仕事に支障をきたすこともなく高知に帰ることができました。

## 最後に

3 泊 4 日のグアム社員旅行を通して、私は今まで知らなかったグアムの裏の顔を見た気がしました。というのも、旅行に行く以前の私はグアムに対して、南の楽園や海が綺麗などといった良いイメージしか持っていませんでした。しかし、実際に旅行してグアムの歴史を学ぶ中でスペイン、アメリカ、日本などの統治下に置かれ、太平洋戦争では大勢の死者を出し、甚大な被害を受けたグアムの暗い歴史を知りました。その歴史の上で他国の人にも壁を作らず社会的に振る舞える現地の方々の強さに驚きを感じました。

今回のグアム旅行では歴史を学び、様々な遊びを体験し、普段接することのない他部署の方々との交流も深めることができた素晴らしい 4 日間でした。

本当にありがとうございました。



## 社員旅行レポート

橋梁構造課 山岡幸弘

### 1. はじめに

5月26日～5月29日、4日間のスケジュールでグアムを旅行した。グアム旅行は、2000年の社員旅行以来の16年ぶりである。1日目は、「アップガン砦」、「ラットストーン公園」、「スペイン広場」、「太平洋戦争博物館」、「恋人岬」を見学した。2日目は、「海中展望塔」と自由行動である。印象深かった「太平洋戦争博物館」、「恋人岬」、「海中展望塔」についてレポートする。

### 2. 「太平洋戦争博物館」

太平洋戦争博物館は、第二次世界大戦中の旧日本軍の資料や戦争中のグアムの歴史が展示され、日本語の解説もあり、とてもわかりやすかった。博物館の前には旧日本軍の2人乗り潜水艦が展示されていた。全長24mもあるのに、2人乗り。乗り心地は配慮されていない。



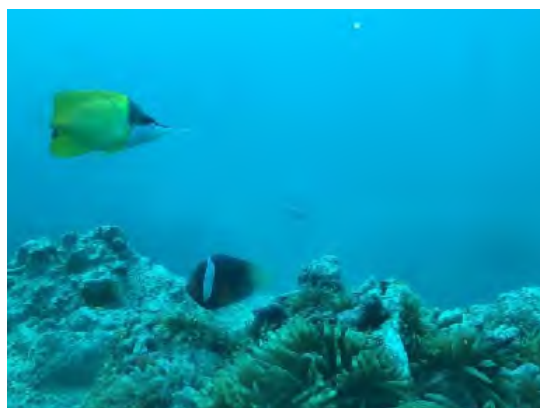
### 3. 「恋人岬」

恋人岬は、静岡県伊豆市、新潟県柏崎市にある恋人岬と姉妹岬提携が結ばれている。恋人岬から見る海岸は絶景である。昼の観光であったので夕日を見ることができなかったのが残念である。きっと、たくさんの恋人が夕日を見ながら愛を誓ったに違いない。



### 4. 「海中展望塔」

海中展望塔は、グアムの美しい海とサンゴ礁の海中世界を誰でも手軽に安全にまったく水に濡れることなく体験できる。



### 5. おわりに

今回の旅行では、観光地や食事以外に印象に残る出来事があった。一つ目は、二次会である。海外ということもあり、部屋で行い、会社について熱く語り合ったことである。とても楽しい充実した時間を過ごすことができた。二つ目は、飛行機のブレーキシステムのトラブルである。整備に時間を要し、出発が7時間30分遅れた。生涯に二度と味わえないだろう。

最後に、今回の旅行に尽力された西村会長をはじめ親睦会の皆様、日本旅行の加田様には心より感謝申し上げます。

# グアム旅行

橋梁構造課 水田勝也

## 1. まえがき

今年の社員旅行は、グアム3泊4日。参加者は、2班のメンバー29名と添乗員の30名である。グアムは今回で2回目である。前は、射撃やレーシングカートを楽しんだ。今回のオプションツアーはジャングルの散策に参加することにした。事前に基本情報を調べていなかったことから、各場所で説明を聞きながらの旅となった。

## 2. 高知からグアムへの移動(1日目)

高知空港に10:30到着後、11:30発の便にて伊丹空港に向かう。伊丹空港から関西国際空港までバスで移動。関西国際空港では、フリータイムや夜の予定などの雑談。19:00にグアムに出発。22:30過ぎにグアムに到着。入国手続きには、3名の審査員しかいなく1時間半の釘付けとなる。夜は、同部屋の山岡課長と慰労会。

## 3. 中心地の観光(2日目)

### 3.1 アプガン砦

アプガン砦は、ハガニャハイツにある観光名所。チャモロ軍の攻撃に備え、チロ総督率いるスペイン側が建てた砦跡。公園として整備されている。海に向かっての景色は、絶景である。夜には良いスポットとなるに違いない。



### 3.2 ラッテストーン公園

ラッテストーンは、サンゴ石でできた石柱群である。ラッテストーン公園にあるものは、1.5メートルほどの高さのものが4本ずつ2列に並んでいる。高床式基礎に使われていたこともあり、ねずみが上がってこないように、首下を削ったそうである。



ラッテストーン公園周辺には、旧日本軍の洞窟要塞が多数あり、第二次世界大戦の名残がある。旧日本軍が残した防空壕で、現在はホームレスが住んでいたこともあるとのこと。



### 3.3 スペイン広場

スペイン広場は、ラッテストーン公園の隣にある。スペイン総督邸跡やチョコレートハウス、聖母マリア大聖堂、ローマ法王像などがある。



### 3.4 太平洋戦争公園

グアムにおける太平洋戦争の歴史を解説する施設である。中に入ると、当時の様子をわかりやすく映像で説明しており、戦争やその悲惨さを改めて実感した。入口の左横に真珠湾攻撃にも使用した旧日本軍の2人乗りの潜水艦が展示されていた。世界中で唯一の保存されている潜水艦だそうである。



### 3.4 恋人岬

恋人岬の名前の由来は、愛し合っているのに結ばれない二人が駆け落ちすることを決意し、髪を結びあって永遠の愛を誓いこの岬から身を投げたという悲恋伝説である。恋人岬には二人の気持ちをかなえるためのハート型のキーが販売されていた。しかし、観光客で購入している方はいない。恋人岬の感想といえばタモン湾の景色がよかったことである。



## 4. 自由行動(3日目)

### 4.1 オプショナルツアー

オプショナルツアーには、村岡課長とジャングル・リバークルーズに参加。プラザホテルから1時間ほどバスで移動すると、グアム南部に流れるタロフォフォ川に到着。参加者は日本人10人、英語圏15人程度で想像以上であった。マリンスポーツも良いと思うが、ジャングルもかなり良い。川を船で進んで行き、途中で大きなナマズがいたり、川幅が狭いところでUターンしたりと楽しめた。先住

民の家を見たり、火起こし実演を見たり、体験したりと。そしてバナナの葉で作ったうちわや入れ物をじゃんけんで取り合ったりと楽しい時間を過ごせた。日本語ガイドや船長とも片言だが楽しく話をしながらクルーズを楽しめた。最後に船を降りると、資料館があり横井庄一さんの説明が少しあった。この川の上流には、横井庄一さんが潜伏生活をしていた洞窟があるとのことだった。生活の様子や発見当時の写真などが展示されていた。

綺麗なジャングルの中を涼しい風に吹かれて、疲れた身体が癒やされた気がした。





#### 4.2 フィッシュアイマリンパーク海中展望塔

フィッシュアイマリンパークの海中展望台は、ピティ湾の岸边から300mほど沖合に伸びた歩道橋の先にある。ラセン階段を降りると360度見渡せる海中パノラマが広がっている。前日の観光時に海中展望塔を通りすぎた時には、少し残念な気持ちであった。しかし、夕食前に立ち寄ることができ、グアムの澄んだ海を海中部分から眺めることができた。海中を眺めると、窓の近くで餌付けを行っているせいかたくさんの色鮮やかな魚の姿が。窓の外からダイバーが手で空気の輪「バブルリング」を作ってくれたり、ちょっとした水中ショーのようで楽しめた。



#### 5. グアムから高知への移動(4日目)

最終日は、5:00に起床し5:55に集合。そのままグアム国際空港に向かい出国手続きを終了した。朝食は、たぬきそばで済ませ、6番ゲートに到着。定刻通りで搭乗し座席に着いた。その時、ブレーキのバックアップに軽微のトラブルが発生し、少し時間が必要とのアナウンスが流れる。その後、調整が必要なことから機内から出る指示が出た。添乗員から、最大1時間から1時間半程度の時間を要する可能性があるとの情報を得て待機することに。しかし、お昼ごろには、情報も入らなくなり、欠航もあるとの話が出始めた。このままの状態では、仮に飛行したとしても日本に着く時間が高知空港着の時間より遅くなる可能性がでてきた。定刻の18:40に高知空港で待ってくれる予定の家族に連絡しないと心配をかけることになる。弘田取締役の提案により、恒石課長から家族への連絡が可能になった。迅速な対応で連絡して頂き、感謝している。関西国際空港には、19:30ごろに到着。高速バスやJRで帰るすべがなく、添乗員より宿泊との連絡があった。しかし、入国を終えるとデルタ航空より、バスの手配が可能との説明。深夜1:00ごろには高知に到着できるとの説明があった。最終的に自宅に到着したのは深夜2:00ごろとなった。



#### 6. おわりに

今回の旅行では、最後のブレーキトラブルによる航空機遅延が心に残る。修復には、時間がかからないとのアナウンスもしばしばあったが、1時間、1時間と遅れ続け、最終的には定刻から7時間半の遅れとなった。説明は、タイミングと正確さが必要であると改めて認識した。後手にまわると、客先からもクレームが生じる典型的なパターンである。前向きにとらえ来年は、トラブルのない社員旅行を期待しながら仕事に戻る。

## Guam社員旅行参加レポート (2016年5月26日～29日)

橋梁構造課 矢田 康久

### 1. はじめに

グアムを訪れるのは今回の社員旅行で2回目となります。前回は社員旅行でした。もう16年くらい前の話です。当時は私も若くて、海やミニゴルフ、夜の繁華街で楽しんだ記憶が残っています。四十路も過ぎてくるとスカイダイビングやオーシャンアトラクションなどのツアーパンフレットを見ても気乗りはしなかった。あらためて思いを馳せてみればグアムがどのような国なのかほとんど知らないこともあり、とりあえず何の準備もなく参加した次第です。朝9時半に家を出て、グアムに到着したのは夜の12時頃です。関西国際空港からは3時間半程度とそう遠くはないのですが、乗り継ぎや待ち時間を含めると一日仕事です。

### 2. グアム初日

グアム初日は、宿泊先のホテルがあり観光のメッカでもあるタモン近郊をバスで廻りました。気温は高知より少し暑く感じる程度で、思っていたより湿気も少なく過ごしやすく感じました。グアムは、かの有名なマゼランがヨーロッパ人として初めて到達した島です。1565年からスペイン領として300年以上植民地となり、その後アメリカにより植民地支配されています。グアムの先住民はチャモロ人で、公用語は英語、チャモロ語ですが、別れの挨拶はスペイン語の「アディオス(Adios)」だそうです。



▲グアムの島花であるブーゲンビリア

スペイン広場では当時の建物などを見学しました。グアムの観光地にはここだけでなく、至

る所に大砲や魚雷など戦争を彷彿させるレプリカが置かれています。町並みや史跡が残る公園にこのようなレプリカが置いてあると、戦争のことしか印象に残らないため、個人的には少し残念な気がしました。



▲スペイン広場

グアムの歴史の中で日本人として知っておく必要があるのは太平洋戦争です。日本は1941年から2年7ヶ月に渡り「大宮島」としてグアムを占領しています。太平洋戦争博物館では、日本とグアム、そしてアメリカとの戦争の歴史について学びました。日本はこのグアム戦争で敗北する訳ですが、日本の死者18,500人に対し、アメリカも2,124人と激戦でした。チャモロ人の命も数千名規模で戦争に巻き込まれて失ったということです。アメリカ兵はアサンビーチから上陸し、この砂浜で多くの死傷者が出たということです。



▲アサンビーチ

私は、日本人観光客としてグアムを訪れていることに違和感を覚えるとともに嫌な罪悪感のようなものを感じました。太平洋戦争が終結し

て70年余り。450年も前から植民地化されてきたグアムの歴史から見ればわずかな時間です。今なおアメリカの軍事拠点であるグアムは大変なリスクを抱えています。今回の旅で戦争という過去、現在、今後の関わり方を改めて考えさせられましたが、この問題はどこまでも根深く、複雑なものであることを思い知らされた気がします。



▲恋人岬よりタモン湾を望む

### 3. グアム二日目

グアム二日目は一日フリーだったので、同部屋の藤原顧問と嘉藤さんとグアム一周観光バスツアーに参加しました。前日と重複する箇所もありましたが、車窓越しに垣間見える地元の文化なり景色なりをガイドさんの説明で巡るのが心地よく感じました。グアムで有名な日本人といえば、横井さんです。終戦から28年間グアムのジャングルの地下壕などで生活しています。タロフォフォの滝では横井さんの洞窟にニアミスしましたが、ガイドさんからレプリカだと聞いて、時間もあまりなかったため私は行くことができませんでした。この狭いグアムで28年間も発見されなかった事が不思議です。



▲タロフォフォの滝



▲ソレダット砦からの眺め

二日連続で、ポリネシアンショーを堪能し、グアムの旅も終わりが近づきました。最初はあまり乗り気ではなかったこの旅も、グアムの歴史と文化に触れ、充実した時間を過ごすことができました。



▲ポリネシアンショー

### 4. おわりに

最終日は飛行機の整備不具合により、グアム空港で実に10時間ほど待たされました。結局、帰りの伊丹発の飛行機には間に合わずデルタ航空がチャーターしたバスで関西国際空港から高知へ直行しました。高知に着いたのは深夜の1時半頃ですすがに疲れましたが、なんとか帰ってこられたのも旅行会社の添乗員さんと第2班のリーダーである弘田取締役、幹事の西村さんのお陰です。本当にお疲れ様でした。また、恒石課長はじめ家族に連絡して頂いた皆様に感謝します。

-以上-

# グアム社員旅行

橋梁構造課 矢野 光明

## 1. はじめに

5月26日～29日、3泊4日のグアム社員旅行に参加した。2000年の社員旅行と今回で2回目のグアムとなる。海外旅行は12年ぶりである。

## 2. 高知からグアムへ

高知龍馬空港から伊丹空港、リムジンバスで関西空港に移動し、関西空港からグアム空港が旅行の行程である。

グアム空港には午後11時頃到着した。入国審査のゲート数が少なく、なかなか進まない。いらいらしながら待っていると徐々にゲートの数が増え、進行が早まった。ホテルには午前0時30分頃到着。

## 3. グアム観光1日目

バスで、アプガン砦、ラッテストーン公園、スペイン広場、アサン海岸、太平洋戦争博物館、恋人岬を観光した。

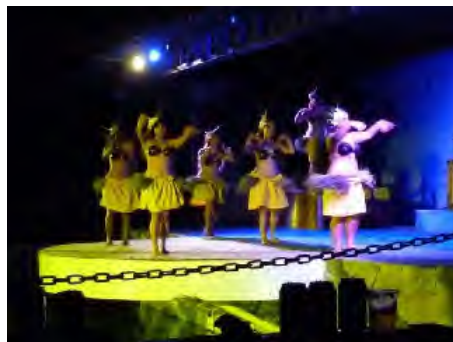
アサン海岸は1944年米海兵隊が上陸した海岸である。一面芝生に覆われた広場であり、日本軍と激戦を繰り広げられた所とは思えない穏やかな景色であった。



アサン海岸の魚雷

夜はBBQを食べながらポリネシアンショーを楽しんだ。BBQの煙が目に入

り、辛かった。



ポリネシアンショーの様子

## 4. グアム観光2日目

ホテルを午前7時頃レンタカー2台に分乗し、11人で観光に出発した。観光ルートは以下のとおり。

デデド朝市→リティディアンビーチ→セッティ湾展望台→ベアーズロック→天然温泉プール→横井タロフオフォ滝公園→Kマート



観光ルート

デデド朝市は土・日曜日の午前6時から午前9時頃まで行われている朝市。

古着や野菜、魚等を売っており、地元の人や観光客で賑わっていた。

朝食は屋台でライススープ(\$2)を食べた。ニンニクと生姜が効いた雑炊で、おいしかった。



朝市の様子



ライススープ

ベアーズロックは岩山が立ち上がった熊に見える所。一見、ゴジラにも見えた。



ベアーズロック

横井タロフオフォ滝公園では、横井さんが28年間潜伏していた洞穴のレプリカや滝等を見て回った。28年間、たった一人のジャングル潜伏生活は想像を絶する。



洞穴の様子

最後にKマートに寄ったが、レンタカーの返却時間が午後4時ということで、30分くらいしか時間になった。目的のお菓子がどこにあるのか、ウロウロしながら何とか買うことができた。

夜はフィッシュアイ・ポリネシアンディナーショーを楽しんだ。人気があるショーであり、会場全体が盛り上がっていた。



ディナーショーの様子

## 5. グアムから高知へ

ホテルを午前6時頃出発し、グアム空港へ。出国検査では靴を脱いで検査が行われた。初めての体験である。

グアムから行きは逆行程で帰国予定であったが、飛行機のブレーキのバックアップ機材の不具合により、グアム出発午前9時の予定が午後4時30分と大幅に遅れた。これにより、伊丹空港から高知龍馬空港への飛行機に搭乗することができなく、関西空港から航空会社が用意したバスにて高知駅に到着したのが、午前1時であった。旅行にはハプニングが付きものであるが、体験したくないハプニングであった。

## 6. あとがき

グアムでの2日間の観光は有意義な時間を過ごすことができた。

参加メンバーの皆様、親睦会の皆様及び日本旅行の加田様に感謝致します。



## 1. はじめに

今回のグアム旅行が2度目の海外旅行である。初めての海外旅行は、13年前にさかのぼる。入社1年目に参加したハワイであった。楽しかった思い出しかない。

今回のグアム旅行にあたって、私は「泳ぐ」そして「英語で会話する」ことを目標として、はやる気持ちを抑えながら日本を飛び立った。

以下にグアム旅行で感じたことを記す。

## 2. 道路関係

グアムはアメリカ本土と同様に右側通行である。国際免許がなくても、車の運転をすることができる。旅行3日目は数人でレンタカーを借り、グアム1周の旅を満喫した。

グアムの舗装状態は決して良いといえる状況ではない。メイン通りを走行していても、激しい段差を感じるがあった。一部の道路はサンゴを混ぜた舗装であり、雨の日は大変滑りやすく事故も多いようである。



舗装の状況

路面標示は日本のものより大きい。視認しやすかった。最も驚いたことは、電柱の大きさである。高さ、架線本数などは、日本と同程度であるが、径は2倍以上ある。歩道幅員の半分程度を占める箇所もあり、歩行者交通の支障になると思われた。基準の違いや風圧に耐えるため、径が大きいのではないかと考えられる。



路面標示と大きな電柱(写真左側)

道路照明は点々と整備されていた。市街地周辺はLEDを採用していた。道路標識の柱は、日本と比べて少し弱々しく感じた。デザイン性にどこか格好良さがあり見入ってしまう。



道路照明と道路標識(速度規制)

走っている車の半数以上は日本車であった。性能が良いため人気がある。日本車でも国内では見たことない車種もあるのだろう。私好みの車種が多かった。



宿泊ホテル前にて

### 3. 海（泳ぐ）

旅行の目標の一つは「泳ぐ」こと。4箇所泳ぐことができた。

1箇所目は、宿泊ホテル前のタモン湾。タモン湾は遠浅のビーチであり、シュノーケリングなどを楽しむ観光客が多かった。至る所にサンゴがある。足を怪我しないためにもサンダルは必須である。遠浅のため大人が泳ぐには物足りない。昼食でビールをほどよく飲んだ後に泳いだ。海水のしょっぱさと波による揺れが合わさって、気分が悪くなった。満喫できなかった。残念である。



観光客で賑わうタモン湾

2箇所目は、レンタカーで訪れたグアム最北端にあるリティディアンビーチである。今回私が泳いだ4箇所のうち、最もお薦めのスポットである。グアム中心部から25km程度離れているため、車で行くしかない。人が少なく、静かで落ち着いた雰囲気である。タモン湾と同様に遠浅であるが、水深は若干深く感じた。海水はタモン湾とは比べものにならないくらい綺麗である。しょっぱさも無い。海で泳いだ後にありがちな、体のべたつきが全くなかった。シャワーが無くて心配ない。「これぞグアムの海！」という感じである。



お薦めスポットのリティディアンビーチ

3箇所目はレンタカーで訪れたグアム南部にあるイナラハン天然プールである。この箇所はサンゴで囲まれた天然プールである。火山活動や波、風の浸食によって自然にできたそう。訪れた日が土曜日ということもあり、現地の子供達が多く泳いでいた。近くでは保護者がBBQを楽しんでいた。せっかくなので、現地の子供達に混じって、飛び込み台からダイブした。気持ち良かった。想像していた以上に水深が深かったため、少し焦った。



天然プールに飛び込む私と後ろで見守る岡技師長

4箇所目は、宿泊ホテルの中庭にあるプールである。初日から目を付けており、滞在期間中に必ず泳ごうと決めていた。3日目にレンタカーでグアム1周をした後、夕食までの1時間の空き時間に、岡技師長、矢田次長、西村(研)主任を強引に誘った。スコールの後であったが、水温は適温であった。日頃の運動不足を少しでも解消するため、クロール、平泳ぎを何往復かした。プカプカと体を浮かべながら、空を眺めることで、リラックスできた。明日で旅行が終わるかと思うと少し寂しさを感じた。



岡技師長と宿泊ホテルのプールサイドにて

#### 4. 買い物

グアムは物価が高い。商品の多くが、輸入品であるためと考えられる。日本でお馴染みのカルピスを例にあげると、500mlのペットボトルのものが、約3ドル（約330円）もする。滞在期間中はもっぱら1ドル程度のミネラルウォーターばかり買っていた。

グアムでは3箇所で購入をした。その際、もう一つの目標である「英語で会話する」ことにチャレンジした。

1箇所目は、2日目の自由時間に訪れたグアムエレメンツである。ザ・プラザ1階に最近オープンしたばかりの店である。ここでは、お土産のクッキー（約20ドル）を購入した。店員さんと英語で会話したかったが、日本語で話し掛けられ、チャレンジは失敗に終わった。



グアムエレメンツ

2箇所目は、3日目の朝にレンタカーで訪れたフリーマーケットである。土曜日と日曜日の朝に開催されており、衣類を中心に雑貨や食料品などの品々が並んでいた。子供のお土産に、特色あるTシャツがないか探してみたが、ビビッとくるものは見つからなかった。暑さで食欲はなかったが、せっかくなのですり身の天ぷらのようなものを買った。学生時代に習った英語を必死に思い出しながら、「How much?」と質問すると、英語で「3個で1ドル」と言われた。味は可もなく不可もなくといったところであった。岡技師長が買った豚の串焼きは、非常においしかった。肉料理がおいしいのは、万国共通ではなからうか。



フリーマーケット

3箇所目は、レンタカーで最後に訪れたケーマートである。グアム中心部にあり、観光客も多かった。食料品から日用品まで幅広い商品が揃っていた。高知で例えるならエーマックスを大きくした感じである。ここでは、妻に頼まれたお土産と日本では手に入りにくい日用品など数点を購入した。合計80ドル程度。店内が広い。時間がなかったため、買い物リストを店員さんに提示し、片言の英語で「この商品どこにありますか?」などの質問をして、時間内にリストの全てを購入することができた。



ケーマート

#### 5. おわりに

今回の旅行で目標としていた「泳ぐ」ことに関しては、達成できた。3日目のレンタカーで訪れた先で、私が気持ち良く泳いでいる間、暑い中にもかかわらず、ずっと待ってくれた同乗者のメンバーに感謝します。もう一つの目標であった「英語で会話する」ことは、いまひとつであったが、リスニングに関しては、端々の単語の意味が分かれば、雰囲気や相手のジェスチャーから理解することができ、少し自信となった。

今回の旅行を通して、より一層の社員間のコミュニケーションが図れたと感じた。

# 研修報告書(グアム)

設計二部 道路交通課 西村 紘寛

## 1. はじめに

社員旅行は4年連続となる。今年は約60名の社員が1班に分かれ参加した。私は第2班として5月26日より3泊4日のグアム研修に参加した。

## 2. スケジュール

5/26 高知→グアム

5/27 集団観光

(パセオ公園, 太平洋戦争博物館, 恋人岬等)

5/28 自由行動

(デデド朝市, フィッシュアイマリンパーク, グアム歴史村等)

5/29 グアム→高知

## 3. 研修内容報告

本研修旅行では、以下の目的を持って臨んだ。

- ・グアムの道路情勢視察
- ・食文化に触れる

### ① グアムの道路情勢

道路交通課に配属され4年目になる。この間道路計画の実務をこなしてきた。日本と海外の道路情勢の違いに興味があったため移動中のバスの車窓から目を凝らして視察した。

まず大きな違いは、自動車走行は道路右側である。信号交差点では赤信号であっても交差車両がいなければ右折が可能である(日本と違い右側走行であるため)。このことを知らなかった。グアム到着後、空港を出発して一つ目の交差点でバスが信号無視をしたと勘違いした。

もう一点驚かされたのは、左折レーンである(日本で言う右折レーン)。グアムでは走行車線と対向車線の間の一車線分の空白地帯が延々と続いていた。これを左折レーンとしてどこでも利用できるものとなっていた。渋滞の解消や交通事故の減少に効果があるが、利用可能な土地に限りがある日本では実行困難と感じた。

### ② 食文化

グアムは東南アジア系のチャモロ人が移住してきたのが始まりとされている。その後スペイン人によるキリスト教文化が定着した。世界大戦を経験し日本とアメリカの領土争いに巻き込まれた。このような歴史的背景から、食文化は幅広いジャンルがある。ホテル周辺の繁華街には日本人観光客向けの寿司屋やラーメン屋、焼肉屋などがあつた。

本研修では、3日目の自由行動日にデデド朝市(土日のみ開催)にて”GOTO”と呼ばれるお粥のようなものを食べることを決めていた。金額は4ドルで味は生姜が利いてとても美味しかった。日本のお粥をスパイシーにした感じである。朝市で販売されていたお粥などの食品は東南アジア系(ベトナムとかタイ)の料理に似ていた。ご当地料理が満喫できた。

(カメラが壊れたので写真無し)

## 4. おわりに

今回の研修では親睦会幹事として班長を任されていた。いろいろとトラブルが発生し班員に迷惑をかけてしまった。また旅行代理店の添乗員にも大きな負担をかけてしまい、班長としての責務を果たせなかった。いろいろと学ぶことが多かった研修であった。今後の人生の教訓としたい。

～思い出の写真～



# 社員旅行(グアム)

道路交通課 中平 隆文

## 1. はじめに

平成 28 年 5 月 26 日から 3 泊 4 日で社員旅行に行った。行き先はグアムである。初日は移動日。2 日目は観光と自由時間。3 日目は終日自由時間。4 日目は移動日。今回が初の海外旅行である私は、不安半分、期待半分で、グアムに旅だった。

## 2. 研修内容

### ～1 日目～

初日は、11 時 35 分発の ANA1606 便で高知龍馬空港から伊丹空港へ。伊丹空港から関西国際空港までは、バスで移動。関西国際空港からグアム国際空港は 3 時間 30 分の空の旅。23 時 20 分到着予定だ。

関西国際空港では待ち時間が 4 時間もあったが、森下さん、北村さん、高橋さん、吉田さんと昼食をとったり、外貨両替などをしているとあっという間に時間が過ぎていた。



関西国際空港での昼食

宿泊先のプラザホテルに到着したのは、深夜 0 時頃であった。チェックイン後は、夜の街へ繰り出す予定であったが、長時間の移動で疲れがピークに達しており、自分の部屋に入り荷物を置くとすぐに熟睡してしまった。次の日に、他の社員のほとんどの方は散歩に出かけたことを聞き少し損をした気持ちになった。

### ～2 日目～

2 日目は午前中がグアム観光、午後は自由時間だ。9 時にホテルのロビーに集合。私は、6 時に起床し、グアムの街をジョギングすることにした。青くすき透った海や朝日に照らされた町並みを見ながらのジョギングはとても気持ちよかった。



グアムの朝

ホテルに戻り朝食をとったら、いよいよグアム観光。行き先は、アプガン砦→ラッテストーン公園→パセオ公園→太平洋戦争博物館→恋人岬である。1ヶ所当たりの滞在時間は短かったものの、グアムの歴史や生活事情を見て感じる事ができた。中でも印象に残っているのが、最初に訪れたアプガン砦である。この場所はグアムが戦場となった時に、大砲が設置されていた場所らしく、今でもその時の大砲が展示されていた。



アプガン砦にあった大砲

恋人岬で恒例の集合写真を撮った後、ホテルへ帰って昼食をとった。昼食後は、待ちに待った自由時間である。

午後からは、若手 6 人でホテル近くにある白いビーチで海水浴に行った。高知の砂浜とは違い砂が細かく歩きにくい。海も浅瀬で泳ぎにくい。泳ぐのをあきらめてビーチバレーをすることにした。バレーボールはレンタルで 10\$。この時は気付かなかったが、バレーボール 1 回 10\$ はかなり高い。日本ならレンタルではなく購入できる価格だ。

ビーチバレーはなかなか楽しく、夕食の集合時間ぎりぎりまで遊んだ。



ホテルの近くにある海

夕食はポリネシアンショーを鑑賞しながら BBQ。屋根があるせいで煙が充満し、目が痛くて食べるのが大変だった。



BBQ の様子

夕食後は、初日昼食と一緒に食べたメンバーで夜のグアムを散歩。途中、逆バンジーが体験できるアトラクションを発見。人生初の逆バンジーに挑戦した。先に挑戦している人を見ているとかなり怖そうだ。しかし、実際にしてみるとあまり怖くなく、夜景がきれいに見えた。

その後、もう少し散歩を続け深夜 12 時頃に明日のオプションツアーに備えて就寝した。



逆バンジーの様子

### ～3 日目～

3 日目の午前中は、この旅行で 1 番楽しみにしていたスカイダイビング。早朝にホテルを出発し、9 時頃に高度 4200m からダイブする予定である。施設に着。説明を聞き、着替えを済ませ、セスナ機へ乗り込んだ。ダイブするポイントまでは、15 分くらいかかった。途中一緒に飛んでくれるインストラクターが話しかけてくれたが、緊張でそれどころではなかった。ダイブポイントにつくと 1 人ずつ飛んでいく。自分の番になり心の準備ができる前に強制的に飛ばされた。最初はすごく怖かったが、次第に慣れた。風が気持ちよく鳥になった気分だ。体感では感じなかったが、なんとこの時 200km/h という猛スピードで落下していたようだ。1 分間のフリーフォールが終わればパラシュートを開きゆっくり着陸。着陸後は、体がふわふわしている感じで不思議だった。

5 分ほどのスカイダイビングはが想像していた以上に楽しく、あっという間だった。セスナ機の中では誰も

話すことができなかつた。地上に着陸してからは、全員興奮気味でダイビング中の話が絶えなかつた。雲の上から地上に向けダイブするという日常では考えられないことを体験し人生観が少し変わったような気がした。またグアムに来る機会があれば必ず私はこの場所に戻ってくると思った。



セスナ機から飛び降りる瞬間

午後からは森下さん、北村さん、高橋さん、吉田さん、有澤さんと私でヤマハサーキットへ行き、カーレースを楽しんだ。日本にあるゴーカートなどとは違いスピードがかなり出る。レース終盤、森下さんの追い上げにあったが、なんとか振切ることができた。

白熱のレース後は、ホテルへ帰り休養をとった。



カーレースの様子

夕食は昨日とは違う場所で、ポリネシアンショーを見ながらグアムの食事を満喫した。ホテルに帰ってきたのが22時。まだ外に出歩ける時間であったが、最終日の集合時間が早かったため、寝坊してはいけないと思い23時には就寝した。

#### ～4日目～

最終日は6時10分にホテルを出発。9時の飛行機で帰国の予定であったが、飛行機の故障で7時間遅れの帰国となった。帰国後の高知便には当然間に合わず、デルタ航空が用意した大型バスで高知へ帰ることになった。高知に到着したのは、深夜1時になっていた。

最終日の大トラブルで、参加者全員が疲れきっていた。

### 3. おわりに

この旅行を通して、普段話をする機会の少ない設計部以外の社員の方とたくさん話をする事ができた。とても楽しく貴重な時間を過ごす事ができた。この旅行で深めた親睦を今後生かしていけるようにしたい。

最後にこの旅行に連れて行って頂いた会社、旅行の準備をして頂いた親睦会の役員の皆さん、同行して頂いた添乗員さんなどすべての方に感謝したい。

## グアム社員旅行(第2班)

調査測量部 矢田歳洋

### はじめに

今年の社員旅行は、3年ぶりの海外(グアム)に決まり、3泊4日で2班に分かれグアムへ行くことになった。第1班が5月19日に出発。その1週間後に第2班29名の1員として出発した。私は初めてのグアムである。今回の旅行では、特に3日目の自由行動「レンタカーを借りてのグアム島観光」を、ホテルが同室の岡さんが考えてくれており楽しみだった。

### 1日目 5月26(木)

高知龍馬空港に10:30集合し、高知空港～伊丹空港～関西空港～グアムへの行程である。

関西空港では、待ち時間が4時間以上あった。暇をもて余し缶ビールで乾杯となる。



日付が変わる頃、今回滞在する「グアムプラザホテル」に到着する。長旅で疲れたこともあり、この日は就寝する。

### 2日目 5月27日(金)

この日は、全員でのグアム観光(昼食)～ホテル(自由)～夕食～ホテル(自由)の行程である。

専用バスで最初に向かった先は、「アプガン砦」というスペイン軍が軍用施設として建設し、その後もグアムを占領した米軍、日本軍と太平洋戦争終結まで軍用施設として使われていた所だ。現在は、日本とアメリカの友好の植樹が行われるなど、平和再生を願った市街地を一望出来る高台の公園であった。



次に「ラッテストーン公園」に行く。



公園には、古代チャモロ人の住居の土台としてさんご石で造られた、石柱群がある。ハガニアでは上位にはいる観光スポットである。



公園の山側斜面には戦争当時に利用された防空壕が掘られていた。ここにも戦争の傷跡が見られた。

道を挟んで海側にある「スペイン広場」で







は、ガイドさん推薦のココナッツジュースを飲む。にがみなく、ほろあまいスイカのような味であった。

再びバスで向かった先は、「アサン海岸」



米軍の海兵隊がグアム島奪回のため上陸し激戦が繰り広げられた地である。

少し南に車を走らせた所に「太平洋戦争博物館」がある。ここでは太平洋戦争の悲惨な映像や当時の資料を見ることができた。



博物館の正面には日本軍の2人乗り潜水艦が展示されていた。この潜水艦は敵艦に体当たりするための物であるということだ。

ここまで回った観光地には戦跡が消えることなく残っていた。

次に向かった先は、「恋人岬」。戦争とは違った男女の悲劇の場所である。



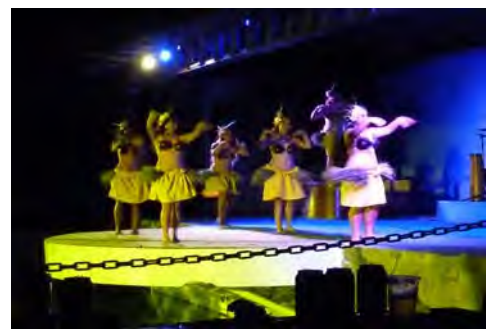
断崖に建つ展望台から一望できるタモン湾の景色は必見だ。

全員での観光はここで終わり、昼食を済ませ後は自由行動となる。



ホテルに帰り同室の岡さんと夕食まで、時間の経つのも忘れのんびり過ごす。

グアム2日目の夕食は、オンワードビーチリゾートでバーベキューを食べながら、ポリネシアンディナーショー。本場のダンスやファイヤーショーを見ながら楽しんだ。



本日は、お酒も入り気持ち良く、就寝する。

### 3日目 5月28日(土)

3日目は、楽しみにしていたレンタカーでのグアム島めぐりとなる。岡さん企画のスケジュールにより時間の許すかぎり楽しむ。

走行経路(グアム島を北から南まで走破)



男性7名、女性4名が2台の車に分乗し土・日の朝開催されるという朝市に到着。



食料品から雑貨まで数多くの屋台が並び活気にあふれていた。



朝食は市場内の屋台でピリ辛味の米スープと焼き鳥で軽くすませる。

次に、グアム島北端にあるリディアンビーチに向かう。



グアム島最北端に位置する断崖絶壁のリディアン岬が見え、ほどなくビーチに到着する。

中心観光地のビーチとちがい、現地の方が数人泳いでいたくらいで、観光客らしい人は見かけなかった。



遠浅で美しいビーチ。思わず岡さん、斎藤君が海パンに着替え海に入る。

グアム島北部の観光を終え、次に南部の「横井タロフォォ滝公園」という終戦後28年間「横井正一さん」が生活したという場所をグアム島の海岸線の観光地を巡りながら目指した。

途中、道を間違え米軍基地に入ろうとするなどのトラブルはあったが、ドライバーの西村君も右側通行になれば快適なドライブとなった。



次に立ち寄ったのが、「セッテイ湾展望台」



ここからの眺めは最高だった。

グアム島最南端を周り



ケーブルカーで谷底に降り



熊の形をした「熊岩」

少し車を走らせて「イナラハン天然プール」



楽しそうに遊んでいる子どもたちを見て、岡さん、斎藤君が飛び込み台よりダイビング。

昼を過ぎ、昼食場所を探しながら「横井タロフオフォ滝公園」を目指すも、食事のできる場所が見当たらず、目的地に到着する。



市街地の観光地と比べ観光客が少なくここにも食事の出来る場所はない。



トロッコで行った先に横井さんの洞穴が



ここが戦後 28 年間終戦を知らず生活していたところということだが、観光のために造られた施設だという説もあるようだ。

ここで思わず時間が掛り、昼食を取るのを断念し帰路につく。



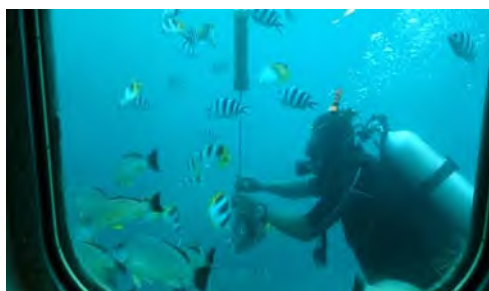
途中、K Mart で土産物を買ってホテルへ

岡さんの企画どおり、島の北から南までを走破しグアムの美しい自然を漫喫する。

夕食まで、ホテルのプールで数十年ぶりの海パンにきがえ、ゆったりと時を過ごす。



夕食に出発、昼食を抜いているせいか、腹ぺこだ。途中、水中展望台に立ち寄る。



海中で美しい魚をダイバーが餌づけしながら芸を見せていた。

グアムでの最後の夜、夕食は、「フィッシュアイディナーショー」



昨晚の夕食よりも豪華な食事に本格的なショーに満足する。

#### 4日目 5月29日(日)

グアムでの2日間は、あっという間であった。出国手続を終え、9:00 発デルタ航空 172 便に搭乗するが、ブレーキ系統のトラブルにより出発できず、ロビーで待機。



8 時間近く出発が遅れ、本日中の帰宅は困難となる。関空から航空会社がバスを手配し、日付の変わった 1:00 過ぎに全員無事に高知駅に到着、家路につく。

#### おわりに

帰りのトラブルは残念であったが、現地では観光に本場のディナーショーと南の島「グアム」を漫喫することができた。また、社員旅行ならではのホテルでの親睦と楽しい旅であった。



このような機会を設けて下さった会社に感謝するとともに、お世話してくださった添乗員さんをはじめ、第2班参加のみさん楽しい旅をありがとう。

## グアム社員旅行(3泊4日)

調査部調査測量課 西村 修

### 1. はじめに

今回の社員旅行先であるグアムは、前回の社員旅行以来2回目の訪問であった。

前回は、泳いでばかりで日焼けし過ぎ、大変なことになった記憶がある。今回は若くないことも考え、のんびりと観光しようと考えた。

### 2. 1日目(高知からグアムへ)

1日目は移動日である。高知龍馬空港に10時30分に集合し、伊丹空港へ。伊丹からリムジンバスに乗り、14時には関西国際空港に到着した。19時発の便であったことからかなり時間を持てあますと思っていたが、食事、ドルへの換金等を行っているうちに時間が経過し、思ったほどではなかった。ただこの時点でグアムの天気予報を確認してみると、観光する2日間はともに曇り時々雨と残念な予報であった。



デルタ航空グアム便

搭乗した、航空機は思っていたより小さく、天候も悪かった為か、よく揺れた。

入国手続きは、相手の話していることが分かりにくく緊張した。待ち時間も長かった。

空港から外に出てまず感じたのが、やはり暑い、蒸し暑いということであった。23時到着ということで多少は涼しいのではないかと思っていたがさすがである。

バスに乗り込むと、クーラーが効き過ぎぐらい効いており、バスの窓が曇りで見えないほどであった。

日本との時差は1時間である。

### 3. 2日目(現地ガイド付きバス観光)



アプガン砦は、裏手の丘から敵が攻め入るのを防ぐため、スペイン人により当初作られたが、その後改修されている。



ラッテストーンは、チャモロの重要建造物の基礎として使用。上部はネズミ返的な役割をしていたようである。公園内のラッテストーンは風化防止のため、コンクリートを吹き付けているようだ。



すぐ隣には、日本軍が掘った洞窟も保存されていた。



スペイン広場は、スペイン統治以来、政府並びに民間行事の中心舞台であったようである。



アサン海岸は浅瀬で、米軍の水際上陸作戦を成功させるには最適であった。

日本軍も必死で応戦した場所ということで複雑な気持ちになった。

現在ビーチは現地の人々の憩いの場で週末は遊泳やバーベキューで賑わうようである。



太平洋戦争博物館

博物館前に展示されているのが、日本軍の2人乗り潜水艦である。後にこの潜水艦に弾頭を搭載し敵艦に体当たりする人間魚雷が開発されたようである。戦争とは恐ろしいものでとんでもない話である。



恋人岬よりタモン湾を望む

伝説の地、恋人岬からの景色は素晴らしかった。下を見ると断崖絶壁で、海の珊瑚礁は青くきれいであった。



免税店等が立ち並ぶホテル周辺の町並み  
昼食は前回のグアム社員旅行で宿泊したホテルでのバイキングであった。骨付きステーキが美味しかった。



夕食は、オンワード BBQ&ポリネシアンショーであった。

BBQは美味しかったが、煙が多く、そして暑かった。ポリネシアンショーについては、やはり素晴らしかった。

#### 4. 3日目(オプションツアー)



3日目は終日フリー。朝6時過ぎのバスに乗り、朝市に出かけた。



チキンラーメン(3.5ドル)を食べた。しかし、注文がなかなかこず、時間が押してしまい、オプションツアーの関係で9時半までにホテルに戻らなければならなかったことから、あとはマンゴージュースを購入しホテルに戻った。時間があればもう少し朝

市を散策したかったが残念だった。



タモンビーチの様子

ホテルに帰ると少し時間があつたのでビーチにいった。砂浜は白くきめの細かい砂で、海は青くかなり遠浅であった。



オプションツアーの車

オプションツアーは、「レッツゴーサウス 南部早廻りツアー」に参加した。時間としては、3時間半の工程である。

ツアー参加者は、会社から3名、その他の参加者は全員日本人の6名、合計9名であった。

まずは前日行った、スペイン広場横のアガニャ大聖堂→アサンビーチへ

アサンビーチ到着前より雨が降り始める。アサンビーチでは、前日行った場所より中に入り海岸を見ることができた。この海岸地形をみると、海岸線が低く、遠浅で上陸することが容易であったことが想像できた。



アサン展望台

アサンビーチ等が見渡せるようだが、雨でほとんど見えず残念。



ベアロック

熊の形に似ていることから、この名前がついている。確かにみる角度によっては熊に見えた。



セッティ湾展望台

この展望台に到着した頃には雨も止んでくれた。前方に広がるのは、フィリピン海である。



チャモロ文化村

チャモロ文化の生活様式の実演等を見学した。英語による説明であったため、細かい内容までは理解できなかったが、以外と身振り手振りで大まかな内容は理解でき楽しかった。写真は、棒を固定しココナツの皮をむいているところである。

(オプションツアー終了)



メリッソン栈橋

マリンスポーツで有名なココス島へのボートはここから出発している。ココス島は、珊瑚礁で出来た長さ 1.5 kmの島。沖合には世界で最深のマリアナ海溝がある。深さ 1 万 m、すごい。



夕食会場の目の前にある海中展望台へ  
太平洋戦争時に爆弾が投下された際、開いた穴に建造された(地元ガイドの話)海中展



望台。入館すると餌付けしてくれたため、様々な熱帯魚を見ることができた。



3日目の夕食も、ポリネシアンショーを観覧しながらのものであった。夕食は、バイキングであったが、魚、蟹、肉と豊富で非常においしかった。ショーについても、昨晚よりも更に素晴らしかった。

#### 5. 4日目(グアムから高知へ)

最終日も移動日である。ロビーに6時前に集合し空港へ。出国手続き時は、靴、ベルト、を外し、ボディチェックもあるという少し嚴重なものであった。



グアム空港

ここまでは良かったが…。



順調に搭乗手続きも完了し、飛行機に乗り

込み準備完了という時に機体トラブルのアナウンスがあり、9時出発予定が最終的には16時発となった。この待ち時間の間、いつ飛ぶようになるのか、はっきりしなかったため、落ち着かない時間であった。

修理した機体で日本までというのがすっきりしなかったが、19時半頃無事関空へ到着した。日本への入国はあっさりとしたものであった。

到着が遅くなったことから、予定していた伊丹→高知の帰りの飛行機に間に合わなくなり、またJRも無理な時間であったことから宿泊の可能性が高くなった。しかし、バスをチャーターすることが出来、どうにかAM1時高知駅到着となった。なかなか出来ない経験で、しておいても良い?経験なのかもしれないが、二度と勘弁して欲しいものである。

#### 6. おわりに

グアムは2000年の社員旅行で訪れていた。泳いだり、拳銃を撃ったりした記憶はあるが他の記憶はほとんどなく、以外と新鮮であった。以前来たことがあっても、時期、見る角度を変えれば有意義なものである。

グアムは日本語が通じることから便利で気楽な面も多いが、反面、英語を話そうとしなくなるのが面白みに欠ける部分なのかもしれない。次回海外旅行の機会があればもう少し英語に挑戦したいと思う。

天候については、悪いことが懸念されたが、恵まれ良かった。

最後に、今回の旅行では最後に大きなトラブルがあり、大変な思いをしたであろう日本旅行の加田氏、旅行全般に渡って大変であったであろう親睦会の方々に感謝したい。

## 社員旅行 in グアム

調査測量課

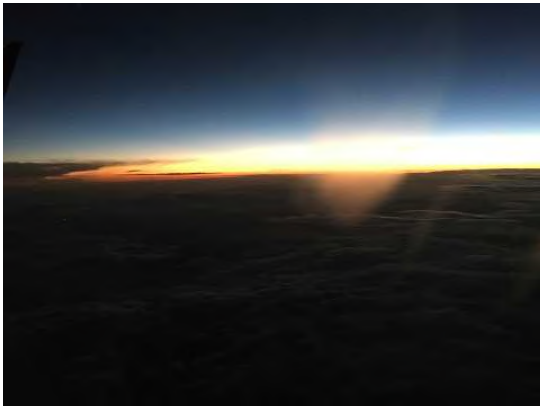
島内 司

### はじめに

平成 28 年 5 月 26 日～29 日、社員旅行に参加しました。行き先はグアムで、初めての海外旅行です。

### 1 日目 高知からグアムへ

初めて社員旅行に参加させていただきました。久しぶりの飛行機に、初めての海外。これから始まる旅行への期待で興奮していました。高知を 10 時に出発しグアムに着いたのが日本時間で 23 時くらいとかなり時間はかかりましたが、次の日からのグアム観光が楽しみでその移動時間も苦にならなかったです。



### 2 日目 グアム観光

二日目はたくさんの観光名所を回りました。一番印象に残ったのは太平洋戦争博物館でした。私は歴史が好きなので昔から戦争で起こった話を聞いたり実際に使われていた武器などを見に行ったりしていました。その度に思うのは戦争をして得はないということです。お互いに傷つくだけだからです。

なのでいつもなぜこんな得のないことをするのだろう？とこういった場所に行くと私は思います。



### 3 日目 フリータイム

三日目は待ちにまったフリータイム。私は人生で一回はやってみたいとずっと思っていたスカイダイビングにチャレンジできました！飛行機に乗り空を飛ぶと急に不安になったりもしましたが、いざダイブするとそんな不安を吹き飛ばすような開放感と爽快感でいっぱいになりました。次はさらに高度をあげてチャレンジしたいです。





## 「グアム旅行に参加して」

調査測量課 中越 紀子

5月26日～29日で3泊4日のグアム旅行に参加しました。

グアムは初めてで、十数年ぶりの海外旅行となりました。

### 高知→グアム【5月26日】

10時30分高知龍馬空港集合。

前日までは良い天気だったのに、雨が降っていた。

11時35分発の大阪行きで伊丹空港へ。リムジンバスを乗り継ぎ関西空港へ移動。

ここでの待ち時間は約4時間。

グアムへは19時発のデルタ航空で3時間半の空の旅。グアムに到着したのは、23時過ぎでした。

旅行に参加するまでは、グアム「リゾート都市」というイメージしかなかったが、観光を通してグアムの歴史に触れると、グアムが太平洋戦争での大きな戦場になっていたことがわかってきました。

どれだけの人が戦争の犠牲になり、どんなことを思って亡くなっていったのかと思うと複雑な心境になりました。

今回の観光を通して、とても貴重な体験ができました。

2日目の夕食はオンワードBBQ&ポリネシアンショー。南国の雰囲気漂う感じで素敵なショーを観ながら、お肉や魚介を自分たちで焼き楽しい夕食でした。ただ煙が凄く大変でした。

### バスで観光【5月27日】

朝9時にホテルを出発し、アフガ砦、ラッテストーン公園、パセオ公園、太平洋戦争博物館、恋人岬と巡りました。

### レンタカーで観光【5月28日】

3日目は夕食までフリー。

男性7人、女性4人でレンタカー2台に分かれて観光に出掛けました。





①デデドの朝市



⑤熊岩



②リテイタン岬



⑥トララン天然プール



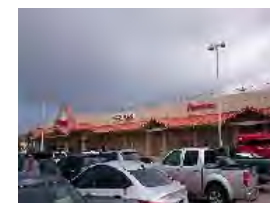
③アガット上陸海岸



⑦タフォフォ滝公園



④セッテイ湾展望台



⑧K マート

朝、7時にホテルを出発して、北から南へと車を走らせ、島を回りながら色々な所を観光しました。デデドの朝市では、食品、衣類、雑貨など色々な物があり、グアムの衣食住文化に少し触れることが出来たような気がしました。

K マートでの買い物。友人からK マートはお土産の種類も多いと聞いていたので、ゆっくり買い物したいなと思っていたが、レンタカー返却の時間に間に合わないと言うことで、20 分で買い物をすることになり、マーケットの中を走り回りながら、家族、友人へのお土産を購入しホテルへと帰りました。

出発前から観光コースの資料集めなどの下準備をしてくれた岡さん、同行していただいたレンタカー組の皆さんのおかげで楽しい観光が出来ました。ありがとうございました。

3 日目の夕食は、フィッシュアイポリネシアンディナーショー。昨日とはまた違う迫力のあるショーでした。

### グアム→高知【5月29日】

早朝ホテルを出発し、空港に向かいました。荷物も預けて9時発、関西空港行きの機内へ乗り離陸を待っていると、エンジンのバックアップ故障で修理中のアナウンス。約8時間遅れでグアムを飛び立ち関西空港へ到着しバスにて高知へ。高知到着は、夜中1時過ぎ頃でした。とにかく全員が無事に帰ってくることが出来てほっとしました。

日本旅行の加田さんには、バス、タクシーの手配、軽食の準備等大変お世話になりました。リフレッシュでき、楽しい旅行でした。ありがとうございました。

## 平成 28 年度社員旅行

調査測量課 西村研了

### 〔はじめに〕

今回で 2 度目となるグアム旅行。前回も会社の社員旅行だった。二班は 5 月 26 日～5 月 29 日かけての 3 泊 4 日の旅

### 〔一日目〕

一日目は高知空港に 10:30 に集合し、ANA1606 便 11:30 発の飛行機で伊丹空港。バスに乗り約 1 時間かけて関西国際空港へ。到着は 13:30。その後、昼食。出国手続き等を行い DL473 便 19:00 発の飛行機で一路グアムへ。ホテルにチェックインしたのは 0:00 頃だった。一日目は移動だけで終了。



(機内より高知空港)



(グアムへ向かう機内)



(グアム国際空港からホテルへ向かうバス)

### 〔二日目〕

二日目はバスにてグアム観光巡り。パセオ公園、太平洋戦争博物館、アプガン砦、ラッテストーン公園、恋人岬等を周りグアムの歴史を学んだ。

アプガン砦の正式名称は「フォートサンタアグエダ」。チャモロ軍の攻撃に備え、チロ総督率いるスペイン側が建てた砦跡。ここからは、恋人岬が遠望できた。



(公園内にある大砲)

太平洋戦争博物館では「グアムの戦い」を学んだ。



(博物館前に展示されている潜水艦)

この潜水艦は 2 人乗りで、沖合のアメリカ軍施設を攻撃する目的で約 2,000 隻製造された潜水艦。後に敵艦への体当たりの任務も負っていた。その他観光地でも短い時間だったが歴史・文化を学ぶことができた。

(恋人岬より)



昼食後に買い物に街に出かけ、少し海でも泳いだ。夕食まで1時間位時間があつたので体力・食欲・飲力回復のため睡眠をとり万全を期した。

夕食はオンワード BBQ&ポリネシアンショー。幻想的にライトアップされたウォーターパークのプールサイドで、ファイヤードダンスを含む伝統的なポリネシアンダンスを鑑賞しながらの炭火焼のバーベキューとビール飲み放題。かなり煙が蔓延していた。



(夕食時)

### 〔三日目〕

三日目は夕食まで自由時間。車をレンタルし、グアム島一周を巡るドライブ観光に出かけた。早朝ホテルを男女11人が車2台に分乗して出発。



(レンタル車左がマツダ車・右がトヨタ車)

まず向かった先は土日しか開かれていないグアム島でも有名なデデド朝市。観光客から地元人のお客で賑わっていた。地元の新鮮な魚と野菜と肉と衣類、その他いろいろな物が安値で販売されていた。デデド朝市で朝食を取り、約1時間滞在し次の目的地に向かった。



(デデド朝市の様子)

次に到着したのがグアム島最北端のグアム国立野生動物保護区域内にあるビーチ。周りは青々とした山と白い砂浜とエメラルドグリーンな海で海水浴を楽しんだ。



(グアム島最北端ビーチ)

次に一路南進し、セッティ湾展望台、ベア・ロック(熊岩)、イナラハン天然プール、タロフォフォ滝公園等と観光地を巡り回り最後にKマートで買い物を楽しんだ。



(セッティ湾展望台より)



(ベア・ロックを望む)



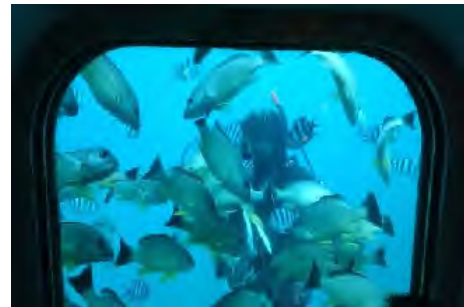
(イナラハン天然プール)



(タロフォフォ滝公園内にある横井下士官苦難の28年間生活洞穴)

グアム最後の夕食はフィッシュアイポリネシアンディナーショー。ちょっとその前にフィッシュアイマリンパーク海中展望塔を見学。夕食は新鮮なシーフードバイキング(ステーキもあり)とビール飲み放題でファイアードダンスショーも楽しめた。料理も美味しく迫力満点のダンスショーでグアム

最後の夜を楽しんだ。



(海中展望塔)



(ダンスショーの様子)

#### 〔四日目〕

6:00 にホテルを出発しグアム国際空港へ向かう。出国手続き等を行い搭乗開始が始まり着席してから機内アナウンスがあり「点検のため出発時間が少し遅れる」とのことである。1 時間飛行機内で待つが出発せず一回降りることになる。結局現地時間 17:00 に出発。空港で約 11 時間待った。予定も変更となり関西国際空港から高知駅までデルタ航空が用意したバスで帰ることになった。20:30 頃に出発し途中休憩しながらも高知駅に着いたのが 1:00。家路に着いたのが 2:00 前だった。疲れて少し痩せたと思ったが痩せてなかった。

#### 〔最後に〕

今回 2 度目のグアム旅行だが、歴史・文化を学ぶことができた。また、車を運転しグアム島一周できたのがいい思い出になった。最後はアクシデントもあったが無事帰ってこれてよかった。楽しいグアム旅行でした。



## [社員旅行 グアム]

調査補償課 西岡 徹

はじめに

5月26日～29日の4日間の日程となるグアム旅行（2班）に参加した。グアムは初めて訪れる地であるのに忙しさにかまけて、事前の下調べもろくにせず、パスポート・着替えと少しの小遣いを持っての出発となった。

日 程

1日目 空路グアムへ

高知→伊丹・関空→グアム(ホテル着 24:00)

2日目 AM 市内観光→PM 自由行動（市内散策）  
→夕食（BBQ & ポリネシアンショー）

3日目 自由行動（レンタカーによる島内観光）→  
夕食（フィッシュアイポリネシアンディナーショー）

4日目 帰路 高知へ

グアム→関空→高知（バスにて高知着 1:00）

訪れた観光スポット

- ・アプガン砦→スペイン統治時代にスペイン軍がチャムロ族との戦争時に造られた砦
- ・ラッチストーン公園→遺跡的なラッチストーンのある公園、日本の防空壕跡もある。
- ・スペイン広場→かつてスペインの総督邸があった場所。周辺には、聖母マリア大聖堂など観光的な見所が多い。
- ・太平洋戦争国立歴史博物館→太平洋戦争の歴史を映像・展示で紹介している。
- ・恋人岬→チャモロ人の娘がスペイン人との結婚から逃れて、恋人同士が愛を誓い髪を結び合って身を投じた。という伝説のある断崖のある岬。

以上、2日目の市内観光

- ・デデド朝市→土日の6時～9時頃まで開催されている地元のフリーマーケット。鮮魚・野菜・衣類など販売のほかファストフードが味わえる。
- ・リティディアンビーチ→島の北端に位置する透明度NO.1と言われる美しいビーチ
- ・ラムラム山を含む丘陵地。展望台はセッティ湾などを含めた絶景スポット。
- ・ベア・ロック→見た目の通り、後ろ足で立つ熊の姿をした岩。
- ・イナラハン天然プール→海岸線を波風や火山活動によって自然にせき止められた天然プール。



[ 恋人岬 集合写真 (15ドル/枚) ]



[ スペイン広場・ローマ法王像 ]



[ デデド広場・屋台前にて ]



[ ベア・ロック ]

・横井タロフォフォ滝公園→横井庄一さんが終戦を知らずに潜伏生活を送っていた洞窟がある。島内で最も美しい滝のある公園。

・Kマート→地元のマーケット。食料品から日用雑貨などあらゆるものを販売。

以上、3日目のレンタカーによる島内観光

### とくに楽しかったこと

・3日目のレンタカーによる島内観光

総勢 11人(男7人,女4人)が2台のレンタカーに乗り込んで島内ドライブ。朝市では、朝食に地元屋台のライススープ(パンチの効いたお粥,2ドル)味わうなどローカルな雰囲気を楽しんだ。

そのあと巡った観光地もツアーではなかなか回れない場所もあり、それぞれの場所でグアムの美しい自然を堪能することができた。横井庄一さんの潜伏していた洞窟まで見学することができたことも大きい。

ホテルへの帰りには、地元のマーケットで買い物などもでき、充実した時間を過ごせた。

### アクシデント

・4日目グアムより関空への航空機トラブル→搭乗途中で不具合が発生したとの機内放送。ブレーキのバックアップ機器類の不具合が原因。当初1時間程度の遅れと伝えられたが結果7時間ほど待たされる結果となった。

### おわりに

今回の旅行は、グアムの観光スポットを巡る愉快なものとなった。

なかでも、レンタカーによる島内観光は、バスツアーでは味わえないどきどき感、わくわく感がいっぱいだった。好きなところを自由に巡り、時間にしばられないすごく開放的な時を過ごせた。

そのほか、迫力満点のポリネシアンディナーショーや繁華街の散策など日常生活を忘れてグアムを楽しめた。

帰路では航空機トラブルにもあったが、これも緊急時の連絡体制を構築する良い機会になったと思う。

初日・最終日が移動となり、実質2日間のグアム滞在であったが、グアムの歴史(先進国の領地争い)や地元の生活にふれることができた楽しい旅であった。

以上



[リティディアンビーチ]



[ラムラム山を含む丘陵地]



[横井タロフォフォ滝公園・YOKOI CAVE]



[レンタカーによる島内観光コース]

# グアム社員旅行

調査補償課 窪添智津子

5月26日から29日までグアム社員旅行に参加しました。

1日目 10時30分に龍馬空港に集合。  
伊丹空港、関西空港 19:00 発、グアムのホテルに着いたのは24時を回っていました。

2日目 アフガン砦、ラッテストーン公園、スペイン広場、アサン海岸、太平洋戦争博物館、恋人岬へとバスで観光しました。  
夕食はBBQ&ポリネシアンショー  
間近で見るのは初めてで、迫力満点のショーでした。



3日目 朝7時に集合  
11名で2台に分かれレンタカーで出発  
まず向かったのは、デデドの朝市  
野菜や鮮魚、洋服や工芸品、地元チャモロ料理等  
たくさんの屋台がありました。朝食にごま団子を  
ひとつ購入。



デデドの朝市

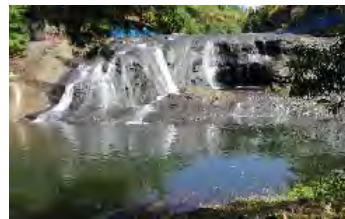
次にリティディアン岬。途中かなりの凸凹道と砂ぼこりでしたが白い砂浜が続く美しいビーチでした。アガット海岸、セッテイ湾展望台、熊岩、イナラハン天然プール、そしてタロフォフォの滝へ、ここには横井庄一さんが28年間潜伏していたと言う洞穴のレプリカがありました。ジャングル生活は想像を絶します。  
当時のニュースで「恥ずかしながら帰って参りました」と言う言葉が印象に残っています。



アガット海岸



リティディアン岬のビーチ



タロフォフォの滝



熊岩



横井さんが潜伏していた様子



レンタカー走行ルート

4日目 ホテルロビーに5時55分に集合  
9時発の飛行機で帰国の予定でしたが、予期せぬアクシデントにより大幅におくれてしまいました。

二転三転する中、日本旅行の加田様の迅速な対応により、無事帰路に着くことが出来ました。  
本当にありがとうございました。

グアムと言えばリゾート地のイメージを思い浮かべますが、戦争によって悲惨な歴史があったことを改めて知ることが出来ました。  
今回の旅行で貴重な時間過ごすことができました。親睦会の皆様、お世話下さった皆様々に感謝します、ありがとうございました。